

第 15 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な
日本語ライティング教育実践の諸相

報告書

大阪大学 国際教育交流センター

2023 年（令和 5 年）2 月 15 日

第 15 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

目次

プログラム	1
背景および趣旨	2
趣旨説明と報告	3
	国際教育交流センター 教授 村岡貴子
講演 1 : 論文の読解から作成に向けて気づきを促す —留学生・大学生のための練習と教材化のアイデア—	16
	立命館大学 経営学部 教授 大島 弥生
質疑応答 1	90
講演 2 : 科学分野を主とする高校から大学院まで一貫した日本語ライティング教育	91
	大阪大学 全学教育推進機構 教授 堀 一成
全体討論	131
写真 : 協議会の様子	135
付録 : 過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況	136

第 15 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な 日本語ライティング教育実践の諸相

日時：2023年2月15日（水）13:30～17:00

場所：コンベンションセンターMO ホール

主催：大阪大学国際教育交流センター

---- プログラム ----

		総合司会 国際教育交流センター准教授	西村 謙一
13:30～13:35	開会の挨拶	国際教育交流センター センター長	有川 友子
13:35～13:50	趣旨説明と報告	国際教育交流センター 教授	村岡 貴子
13:50～14:50	講演 1 :		
	論文の読解から作成に向けて気づきを促すー留学生・大学生のための練習と教材化のアイデアー		
		立命館大学 経営学部 教授	大島 弥生
14:50～15:50	講演 2 :		
	科学分野を主とする高校から大学院まで一貫した日本語ライティング教育		
		大阪大学 全学教育推進機構 教授	堀 一成
15:50～16:10	休憩		
16:10～16:55	全体討論		
		全体討論司会 国際教育交流センター准教授	中俣 尚己
		立命館大学 経営学部 教授	大島 弥生
		大阪大学 全学教育推進機構 教授	堀 一成
		国際教育交流センター 教授	村岡 貴子
16:55～17:00	閉会の挨拶	国際教育交流センター 教授	義永美央子

第 15 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な 日本語ライティング教育実践の諸相

背景と趣旨

コロナ禍となって以来、大学における日本語教育を取り巻く種々の環境が目まぐるしく変化しています。この間、多くの大学で、教員が個別にあるいは協働で、コースデザインに関わるシラバス作成から成績評価終了まで、多様な日本語教育の内容・方法の検討を続けてきました。学部・大学院レベルともに、個々の学部・研究科等が当該所属の学生に授業を提供する方法に加え、全学的な取り組みや、相互乗り入れといった部局間の連携を行う場合もあり得ます。さまざまな取り組みが行われている中、この時点で、各々の教育実践を振り返り、今後の展開について議論を共有することは、有意義であると考えられます。

今回は、特に、大学における日本語によるライティング教育にフォーカスしたテーマを設定しました。ライティングは、専門分野を問わず、大学の学部初年次から大学院博士課程まで、レポート・論文の作成や発表、研究活動に必要な報告といった成果発表に関するものに加え、研究上必要な調査票や依頼文等、さまざまな局面で必須とされる活動です。本協議会では、多様な在学段階の学生を対象として、教員は、必要な日本語のライティング教育をどのように行ってきたのか、また、それぞれの困難点をどう克服してきたのか等について、具体的な実践例を共有して議論を行いたいと思います。その際に、学部・大学院横断的、専門分野横断的といった、より広い視野に立って、種々の教育実践を振り返り、今後を展望できればと思います。

講演者として、特にアカデミック・ライティング教育研究等で活躍なさっている専門家の立命館大学の 大島弥生先生と大阪大学の堀一成先生にご講演いただき、CIEE からも報告を行った上で、全体討論において、参加者の方々と今後を展望したいと思います。

趣旨説明と報告

村岡 貴子
大阪大学国際教育交流センター 教授

第15回大阪大学専門日本語教育研究協議会 2023.2.15
於:大阪大学コンベンションセンターMOホール

「学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な日本語ライティング教育実践の諸相」

趣旨説明と報告

大阪大学国際教育交流センター
日本語教育研究チーム

村岡貴子

muraoka.takako.ciee@osaka-u.ac.jp

内容

1. 本協議会の趣旨
2. 国際教育交流センター（CIEE）による
全学の留学生向け日本語プログラム
3. 上級日本語ライティング関連の授業
4. 講演と全体討論に向けて

本協議会の趣旨の前提として

大学での「**ライティング活動**」:

専門分野を問わず、大学の学部初年次から大学院博士課程まで、種々の局面で必要とされる。

例: レポート・論文・各種報告書、調査票、依頼文、
フィールドノート、Eメール、各種記録

分野により日本語使用が死活的に重要な場合もある。

1. 本協議会の趣旨

教育現場を取り巻く「変化」を捉えつつ、ライティング教育実践に関する情報や見解を共有した上で、今後の大学でのライティング教育のあり方を巨視的に検討し、展望する。

RQ: 今後、大学でこそ行う教育・支援はどうあるべきか

- 視座：
- ① 学部・大学院縦断的に
 - ② 専門分野横断的に
 - ③ 学生の母語の違いを問わずに

2. 国際教育交流センター（CIEE）による 全学の留学生向け日本語プログラム

CIEE: <https://ciee.osaka-u.ac.jp/#>

留学生日本語プログラム: https://ciee.osaka-u.ac.jp/education/japanese_program/

ガイドブック: https://ciee.osaka-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/10/2022fw_japanese.pdf

(2023.3半ばには新年度向けに情報更新予定)

3. 上級日本語ライティング関連の授業 —学際融合教育科目を例に—

学際融合教育科目:

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されています。

(中略)これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めています。

レベルは上級(600レベル)~超上級(700レベル)に相当します。

(CIEEウェブサイトより)

「上級専門日本語アカデミック・ライティング」

授業の目的と概要:

論文やレポート、各種報告書、Eメールでの通信文等、研究活動およびそれを支える学術的な文章の特性を理解し、アカデミック・ライティング能力を向上させることを目的とする。授業では、多くの文章例を、クラスメートと協働でクリティカル(批判的)に分析し、かつ各自レポートを作成・改訂しながら、文章の構成や論理展開の方法、および的確な表現について学習し、推敲能力を向上させることを目指す。

(大阪大学KOANのシラバスより)

「上級専門日本語アカデミック・ライティング」

学習目標:

- ① 専門書や論文を読み、それらの文章の目的、表現と構成が正確に理解できるようになること。
- ② 専門書や論文を批判的に読めるようになること。
- ③ 自分の専門分野の種々の調査や実験に基づいたレポートや論文が作成できるようになること。

(大阪大学KOANのシラバスより)

大学院生向け上級日本語科目の例:

シリーズ: コミュニケーション、リーディング、ライティング

共通の目標:

大学院生が自身の専門分野における学術的な背景事情・文化・作法について理解を深め、日本語による学術的活動の意義を理解して適切に行動できること。

大学院生向け上級日本語科目の例:

シリーズ: コミュニケーション、リーディング、ライティング

共通するタスク:

専門分野横断的に必要となる、音声言語・書記言語の適切な選択的使用とその意義への理解を促進し、コミュニケーションの経験を増やし、その経験への内省を促す。

4. 講演と全体討論に向けて

- 大学・大学院でのライティング活動に着目する。
- 在学段階・専門分野・学生の母語の違いを超え、共通して求められるライティング教育を展望する。
- 巨視的な視点を保持[1]して教育・支援・研究に取り組みたい。

[1]村岡他(2022)

参考文献

村岡貴子・阿部新・脇田里子・池田隆介・大島弥生(2022)「学習者と教員の背景要因がアカデミックな日本語教育に及ぼす影響 —ビリーフ・学習プロセス・学習環境の観点から狭義の言語能力育成を超えて—(パネルセッション)」『日本語教育学会秋季大会 予稿集』 pp.34-43

講演 1

論文の読解から作成に向けて気づきを促す
—留学生・大学生のための練習と教材化のアイデア—

大島 弥生
立命館大学 経営学部 教授

第15回大阪大学専門日本語教育研究協議会
2023年2月15日（水） 13：50～14：50 講演①

論文の読解から作成に向けて気づきを促す
ー留学生・大学生のための練習と教材化のアイデアー

立命館大学 経営学部・日本語教育センター・
大学院言語教育情報専攻科 大島 弥生

自己紹介



どうする？ 自分

今まで、日本語学校、海外の大学（香港大学）での日本語科目担当を経て、国内大学（東京海洋大学）での留学生日本語科目（学部生・短期／交換留学生・大学院／研究留学生）、**初年次必修科目「日本語表現法」、**専門科目、実習科目、留学生・国際学生と国内出身学生（以下、母語話者学生と称する）との共修科目、卒業論文・修士論文等の指導とゼミ担当などに従事（現、立命館大学）。

- ⇒ つまり、**ちょっとずつ色々**やった ≡色々なアカデミック・ライティングAWや読解を**教えざるを得ない**
- ⇒ 自分の専門だけではなく、**他の分野**（理系・社会学系・人文学系）専攻の**母語／非母語**話者学生を担当
- ⇒ AWと読解を（書き手学生の専門からの）**「専門外」**からどう支援するか**試行錯誤**してきた**「体験談」**
- ⇒ どうする？... 困った時には仲間と**練習・教材**を作ってきた（文献一覧参照）... **一例**としてご参考まで

* ちなみに、関西初心者です（東京品川から大阪茨木018のキャンパスに着任1週間後に緊急事態宣言）

本日の流れ あえて「俯瞰的・巨視的」に 複数の事例を見る

◆ 大学／大学院での アカデミックライティング 概要

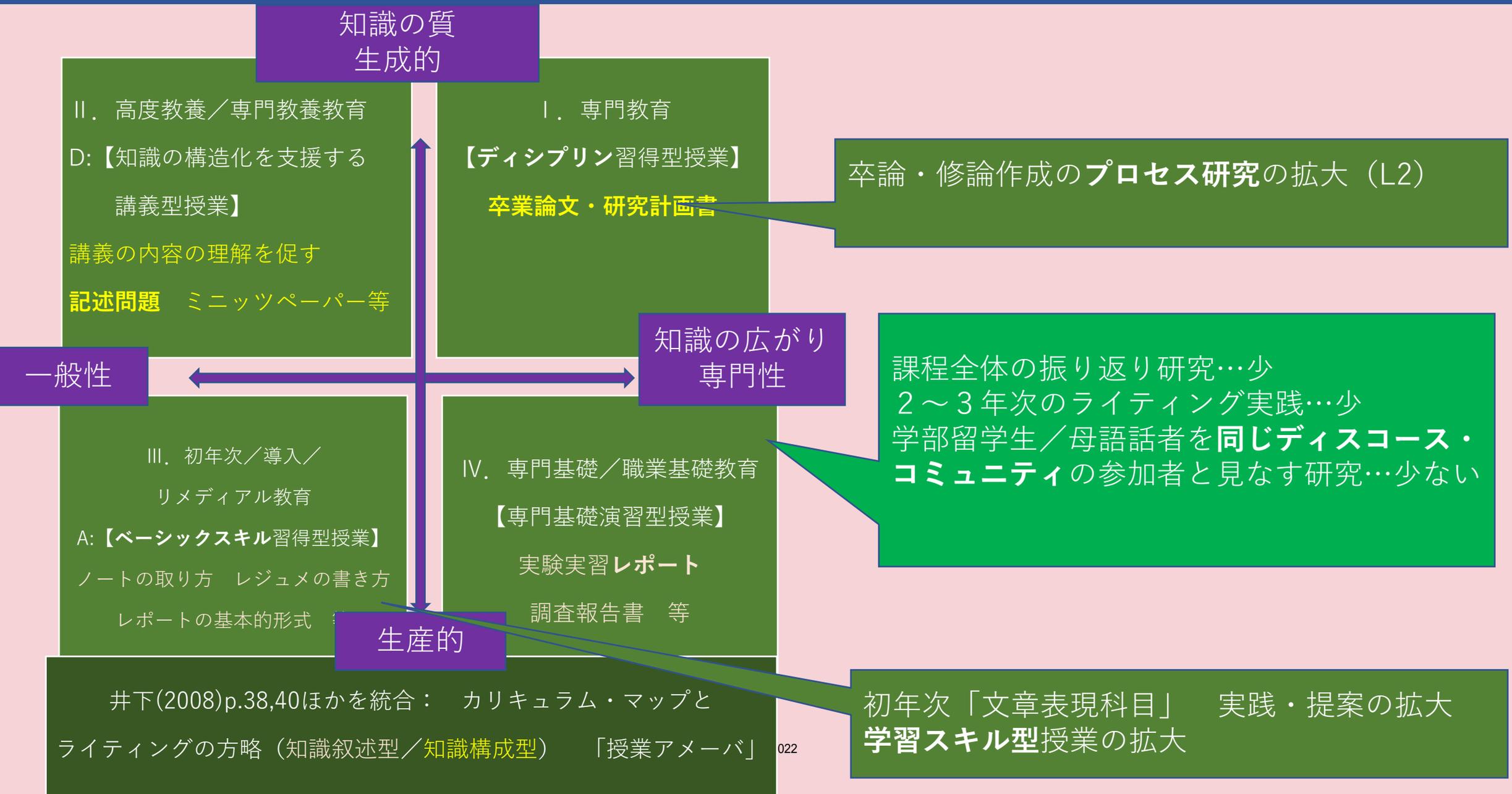
- ◆ 母語・非母語話者の共通点と相違点
- ◆ 学年別（時系列）に必要とされるAW
- ◆ 共通する基盤としての 日本語能力（自己推敲・自己点検能力） など
- ◆ 事例1（基礎）：読解（テキスト／データ）から⇒（抽出・要約）⇒引用＋解釈／評価をAWに取り入れる
- ◆ 事例2（発展）：論証型レポート作成のプロセスに 資料検索と 引用とPRを AWに取り入れる
- ◆ 事例3（論文入門期）：論文読解 ⇒ 論文ジャンルの特徴の理解 ⇒ AW・論文作成支援に結びつける
- ◆ AWと読解 指導の留意点 「唯一の正しい答えを目指さない授業」
- ◆ まとめと今後の課題

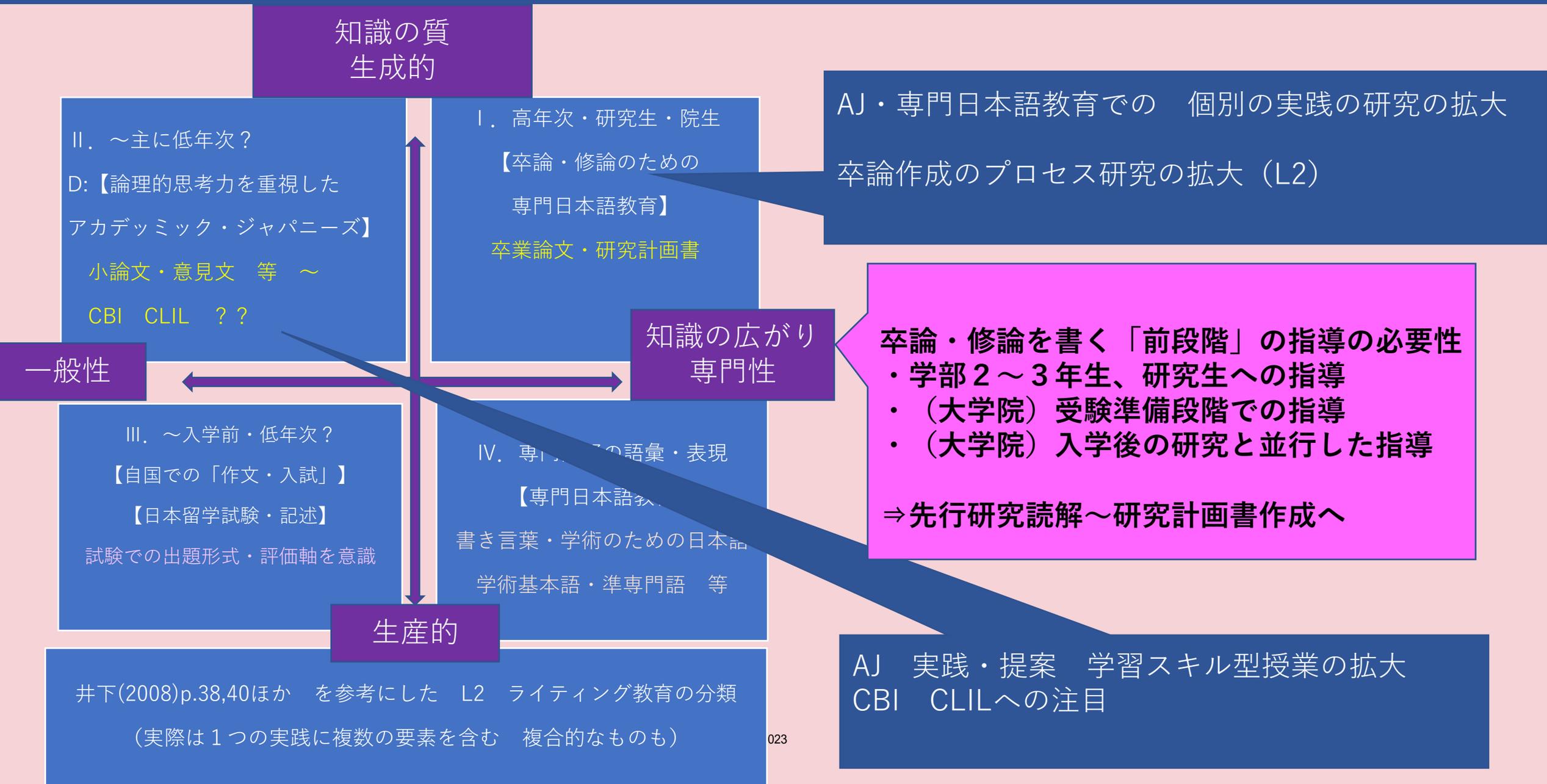
概要 編

大学・大学院での アカデミック・ライティング(AW)と 読解

- ◆ 学年別（時系列）に必要とされるAWは、どのように変化するのか
- ◆ 母語・非母語話者の共通点と相違点はあるのか
- ◆ 「レポート」分類と ライティングのプロセス に着目してAWを考えると…
- ◆ 大学で「レポート」と呼ばれているものは何か
- ◆ 担い手（言語の教師／専門科目の教員） に着目してAWを考えると…
- ◆ Qそれぞれの段階のAWで （学習者は）何を考え、 何を行っているのか？
- ◆ Q読解とライティング（AW）を どのように結び付けるか？

背景 ①大学学士課程におけるライティング教育





知識の質
生成的

II. ~主に低年次?
D: 【論理的思考力を重視した
アカデミック・ジャパニーズ】
小論文・意見文 等 ~
CBI CLIL ??

一般性

知識の広がり
専門性

AJ・専門日本語教育での 個別の実践の研究の拡大
卒論作成のプロセス研究の拡大 (L2)

卒論・修論を書く「前段階」の指導の必要性
・学部2~3年生、研究生への指導
・(大学院) 受験準備段階での指導
・(大学院) 入学後の研究と並行した指導
⇒ 先行研究読解~研究計画書作成へ

I. 高年次・研究生・院生
【卒論・修論のための
専門日本語教育】
卒業論文・研究計画書

III. ~入学前・低年次?
【自国での「作文・入試」】
【日本留学試験・記述】
試験での出題形式・評価軸を意識

生産的

IV. 専門日本語教育の語彙・表現
【専門日本語教育】
書き言葉・学術のための日本語
学術基本語・準専門語 等

AJ 実践・提案 学習スキル型授業の拡大
CBI CLILへの注目

井下(2008)p.38,40ほか を参考にした L2 ライティング教育の分類
(実際は1つの実践に複数の要素を含む 複合的なものも)

アカデミックライティングの段階と 要求される 能力・スキル

- ◆ 母語・非母語話者の共通点と相違点
 - ◆ 学年別（時系列）に必要とされるAW
 - ◆ 「論理性」
 - ◆ 「明瞭さ」
 - ◆ 「事実と意見」
 - ◆ 「引用の必要性」
 - ◆ 「情報検索」
- ⇒各ルーブリックも

- ◆ 非母語話者特有？
- ◆ 語彙力？
 - ◆ パラフレーズ
 - ◆ 要約～引用？
- ◆ 文法能力・表現★
 - ◆ 名詞句化
 - ◆ 時制・態
 - ◆ 自他動詞
 - ◆ モダリティ
 - ◆ 助詞…
- ◆ 学習の転移？
- ◆ 学習スタイル？

卒論・修論・ゼミ：ディシプリン(学問分野)での研究手法によって
問いを立てて根拠をもって解を追究する 思考のプロセスの外化

レポート・記述問題：（授業の）知識の構造化+論理的思考の外化

初年次科目等：学習スキルの基礎

事実と意見、引用の必要性の認識、書き言葉

共通する基盤としての 日本語能力（自己推敲・自己点検能力）

★の教材 二通・佐藤(2020), 小森・三井(2016) ほか

多様な領域からの AWへの 発信 例

◆ ライティング教育からの発信

- ◆ 教育学・教育工学 関連： 熟達研究 リテラシー研究 ロジカル・シンキング 様々な思考ツール
- ◆ 認知科学・学習科学 関連： ライティング・プロセス研究
- ◆ 協同・協調・協働教育 関連： ピア・レスポンス ピア・リーディング ロール・レタリング

◆ 日本語教育からの発信

- ◆ 初年次教育・リメディアル教育からの発信 ⇒ 「論証型レポート」関連教材・実践発信が多い
- ◆ コーパス研究・語彙研究からの発信

◆ ライティング・サポート（センター関連）からの発信

- ◆ ICTからの発信
- ◆ 隣接分野からの発信

大学で「レポート」と呼ばれる 課題の分類

◆ 井下(2019) 説明/報告/実証/論証型

◆ 成瀬(2022)

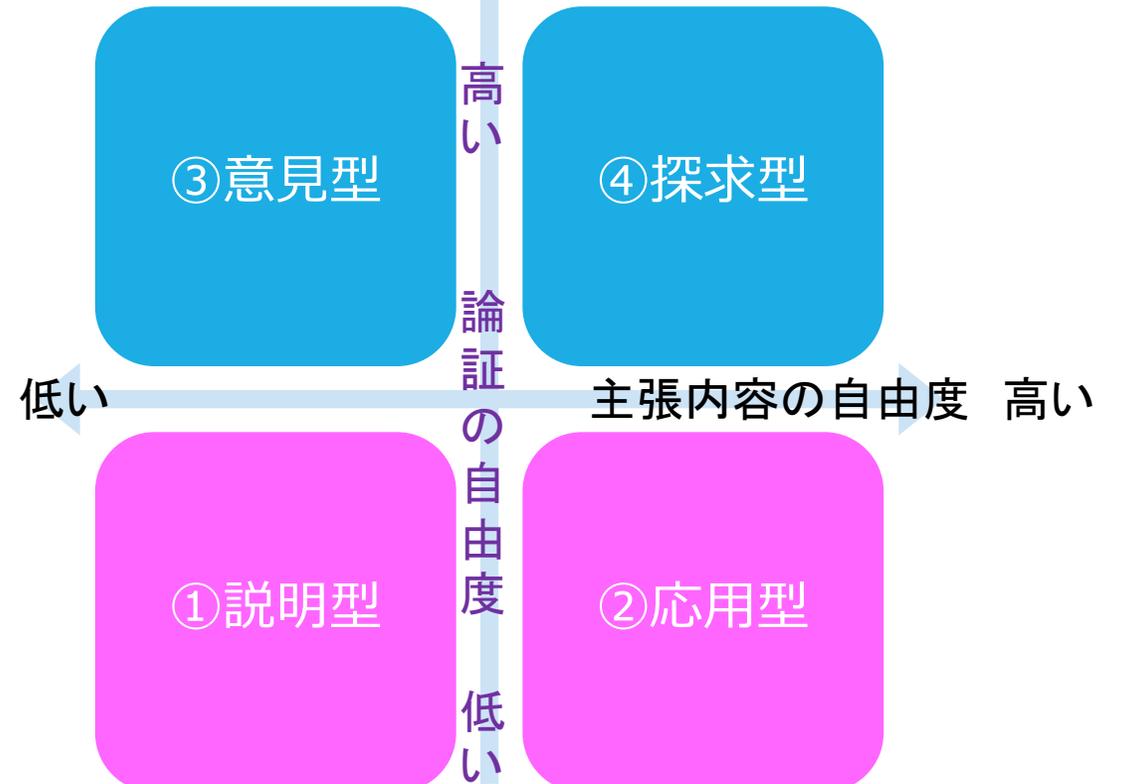
◆ 「論証レポート」が「機能しないケース」

◆ 大学教員35名への聞き取りに基づく分類
「教員と学生との齟齬」をなくすため

◆ 素材（授業内容）に対して

- ◆ ①説明型：説明を求める
- ◆ ②応用型：踏まえて応用
- ◆ ③意見型：意見を求める
- ◆ ④探求型：問いを立てて答える
- ◆ ①②「できているかどうか」理解確認
- ◆ ③④「自身がどう考えるか」求める

③④は「AW科目で求められるアカデミックライティングと親和性が高い」(p.167)＝「**アカデミックレポート**」と呼ぶ提案



①②「授業内容の理解度を確認するための」(p.167)＝「**学習レポート**」と呼ぶ提案

専門(科目)教員と 言語表現(AW科目)・日本語教師の アプローチは異なるのか？

- ◆ **専門(科目)教員**：
 - ◆ 卒論を目標にゼミ・基礎ゼミを 書くための力を付けさせたい？
 - ◆ 講義科目では「理解確認」W？
 - ◆ 文章の内容に焦点？
 - ◆ Wに反映されるディシプリンは、教員にとって自明のもの？
- ◆ **AW科目担当者や日本語教師**：
 - ◆ 「その科目で目指す」AW？ vs.
 - ◆ 学生の専門分野・大学での学びを「支援するための」AW？
 - ◆ 文章での表現・形式・構成に焦点？
 - ◆ Wに反映されるディシプリンは、教員にとって相対的なもの？
- ◆ カリキュラムや教師のビリーフによる異なり

II. 高度教養／専門教養教育

D: 【知識の構造化を支援する
講義型授業】

講義の内容の理解を促す

記述問題 ミニツツペーパー等

I. 専門教育

【ディシプリン習得型授業】

卒業論文・研究計画書

III. 初年次／導入／

リメディアル教育

A: 【ベーシックスキル習得型授業】

ノートの取り方 レジュメの書き方

レポートの基本的形式 等

IV. 専門基礎／職業基礎教育

【専門基礎演習型授業】

実験実習レポート

調査報告書 等

井下(2008)p.38,40ほかを統合： カリキュラム・マップと

ライティングの方略 (知識叙述型／知識構成型) 「授業アメーバ」

実践設計での「レポート」作成のプロセスへの 注目

◆ライティングのプロセスを考える際、

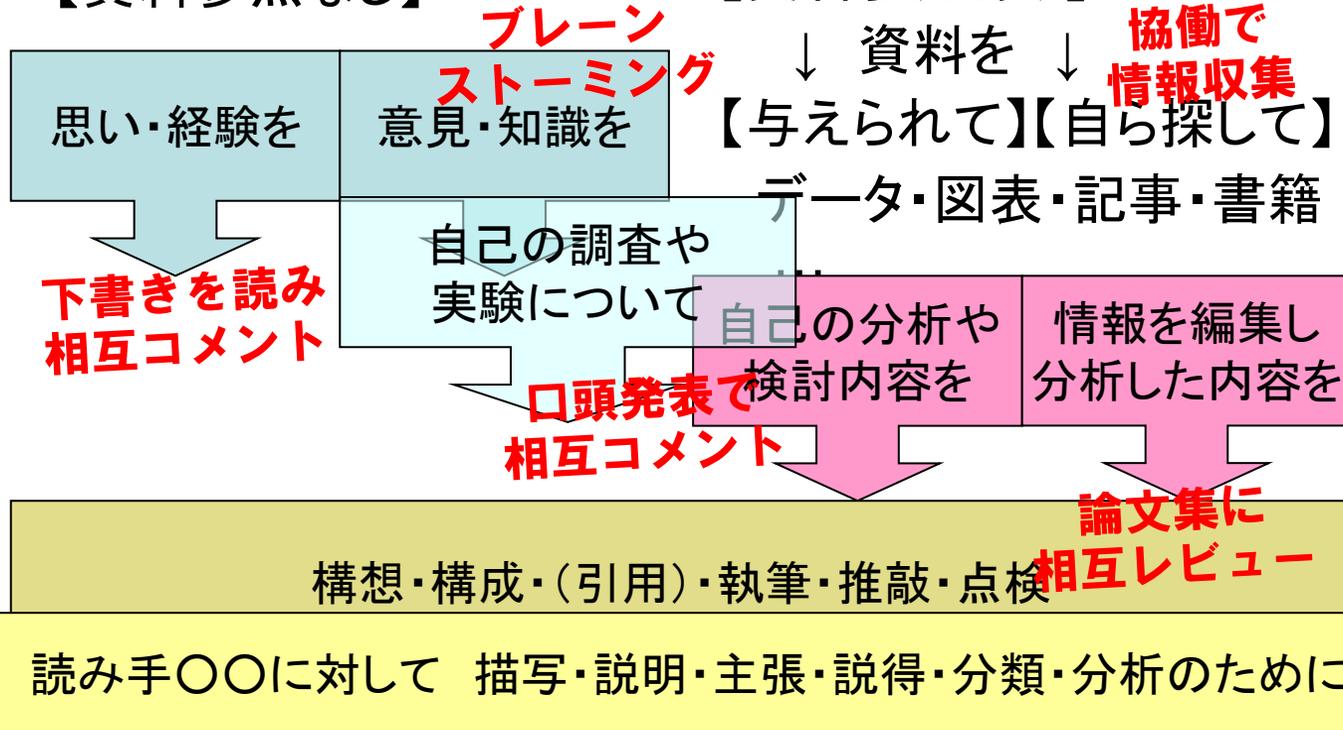
- ・ 資料参照の有無
 - ・ 協働活動
 - ・ 想定される読み手
 - ・ 文章の目的
- によって

実践や文章のあり方は異なる

書く課題の多様性 + 協働活動の取り入れ

【資料参照なし】

【資料参照あり】



完成したジャンル: 作文・小論文

レポート・論文

学部留学生は、資料なし小論文はうまい⇒ しかし、読解+AWは??

自己・他者の言葉とライティング： AWでの「引用」と「解釈」

- ◆ 各種のレポート作成支援教材： 引用の「文型」としての紹介が多い…なかなか使えるようにならない
 - ◆ 学生「初めて引用したが、難しい」「レポートのすべての文は実は引用」「4年生で初めて初年次の引用の間違いが分かった」
- ◆ 山本・二通（2015） 引用～解釈の表現の連続体
- ◆ 専門日本語教育からの発信
- ◆ まずは、先行研究や読解対象について 「誰 は 何 をもとに/ことから ～と 指摘・主張している」と要約できるところから （早めに学習を始めるとよい） ⇒事例1
- ◆ つぎに、自分のレポートで、根拠として引用を行えるようにする ⇒事例2
- ◆ さらに、自分の専門分野の学術論文・研究が、どのような 引用～解釈 を用いているのか（なぜか）を説明できるように なるるとよい ⇒事例3

大学・大学院での AWをめぐって どんな 学習が起こっているのか

◆ 書き手へのインタビューに見る学びの認識 大島 (2021)

初年次・教養・基礎教育・実習・専門科目段階

母語・非母語話者学生の 一部に共通の語り：

[出せば合格する課題と厳しい課題への**労力配分**を変える方略]

各自の性向・興味に牽引されたライティング vs.

単位取得と労力の優先的分配

[教師の質問に答える形でのレポートの形成]

[対話と模倣を通じた自分の思考と課題との「**擦り合わせ**」]

[課題の意図と形式の**非明示**への不満]

⇒授業者側の教示の変容の必要性 + AW課題の目的を自ら読み取れる理解力醸成の必要性

初年次科目と異なる論題への**困惑** ⇒論題の多様性に即した訓練の必要性

(⇒佐渡島ら2022；成瀬2016, 2022 ほか)

教師フィードバックは概して希少だが、その印象は深い



研究の結果と考察：卒業論文・セミナー段階：大島2022より

アカデミックなディスコースでの社会化 (academic discourse socialization, ADS) のある環境での学び：

・理系の例

CR/JR [卒論ゼミでの発表での協働学習]の中で [ADSでの参照枠組みとしての「先輩の論文」] 等の取りこみ (uptake) [ADSでの構造の参照と自己のテーマでの調整]

CR 研究室での知の「世代間継承」に参加するケースも

⇒他者（ゼミ生・先輩・ポスドク・教員等コミュニティ成員）とのインターアクション

・文系の例

JK[3年ゼミの効果の卒論執筆後の実感] [初見か既有知識のある相手かによる前提の差の体感][印象的な教員アドバイスの適時性]

CK[専門科目での事例分析での興味の卒論での継続][他のゼミ生の発表からのADS] [他のゼミ生からのデータの読み方の指導/発表後の指導][教員の協働推敲の推奨]

⇒他者（ゼミ生・調査協力者・教員等コミュニティ）とのインターアクション

JB[知識源としての文献利用と自己の知識の統合のプロセスの困難さ]

CK[院試のための多数の論文読解を通じたADS] [研究計画書の型のネット検索]

⇒「他者としての文献」/学術ジャンル情報とのインターアクションとADS



大学・大学院での AW 今後の課題

村岡ら(2022)NKG秋パネル大島担当部分より

- ・インパクトのあるライティングの体験=成功体験 が、ふりかえり総括に影響。
- ・答えのない課題を「しっかり自分の言葉に整理して・まとめる」レポートによる「考える能力をあたえる機会」

⇒学びを日本語科目内にとどめず、明示的フィードバックが希少な環境でも、ライティングを通じて、知識の再構造化・考えるプロセスの明確化を、学習者が自律的に継続できることを、長期的な学習目標として位置づける 必要性

- ①単なるネット検索結果ではない、思考の外化を組み込んだ課題での自律学習促進
- ②学期最終日提出ではない、思考の外化のための対話を組み込んだ過程設計・意義づけ
- ③ライティング科目のみではない、Writing Across the Curriculumの推進・意識化
- ④卒論（ゼミ）以外でもADSの機会を豊富にする、段階的な学習環境設計

「ある科目・論文のライティングをめぐる何が問われているかを知り、学びの中での知識の再構造化、思考のプロセスの外化をどのように表現しうるか」をより強く意識化させる活動・授業設計／課外の支援環境の構築と連携の必要性

⇒これらを 読解から 論文作成支援までの 授業活動に 落とし込めないか？

事例編 1 (基礎) :

読解 (テキスト/データ) から⇒ (抽出・要約) ⇒引用 + 解釈/評価をAWに取り入れる

II. ~主に低年次?

D: 【論理的思考力を重視した

アカデミック・ジャパニーズ】

小論文・意見文 等 ~

CBI CLIL ??

I. 高年次・研究生・院生

【卒論・修論のための

専門日本語教育】

卒業論文・研究計画書

III. ~入学前・低年次?

【自国での「作文・入試」】

【日本留学試験・記述】

試験での出題形式・評価軸を意識

IV. 専門分野の語彙・表現

【専門日本語教育】

書き言葉・学術のための日本語

学術基本語・準専門語 等

←IV + IIの 段階の一例?
留学生日本語科目 (学部1年) で
書き言葉の基礎から
読解・要約・引用・解釈を経て
検索・発表からレポート作成へ

事例編1(基礎): 上級留学生日本語科目(学部1年生)

読解から ⇒抽出・要約 ⇒引用・解釈／評価

・上級の読解 正誤(○×)・精読して
Q&A・口頭で感想? で終わりがち?
=AWと乖離?
⇒上級の読解 を AWにつなげる

・読解 ⇒内容の正誤(○×)
⇒パラグラフごとの要約
+ 引用／評価の表現 を書かせる

・似たテーマの文章(記事)を検索 ⇒
グループで「ポスター発表」
+その記事を根拠とした主張AW

読み取り確認の読解から書くための読解へ

概要: 正規留学生の日本語クラス
*新型コロナの影響でオンライン(ZOOM)

受講生の到達目標

- ・(1) 大学での学業に必要な読解力を身につけ、自ら設定したテーマについて分析し、ブック・レポート(課題文章を読んだレポートや先行研究へのレビューを含む)の形で文章に示せるようになる。
- ・(2) 他者の文章や発表に対して適切なコメントができるようになる。
- ・(3) 大学の授業や課題で求められる表現形式(書き言葉、引用表現など)が使えるようになる。

共有する ルール

- 読解とAWの基本ルールを資料にして配布
(右は配布資料)
- 随時、見る
- 振り返りにも使う

- 読むときのポイント: アカデミックな文章を読むときのポイント
-
- 1. 誰の言葉か、を明確に!!
 - ① 「事実」と「意見」を分ける!! (別の文で書く)
 - ② 「他者の意見」と「自分の意見」を分ける!! (別の文で/段落で書く)
 - ③ 「他者の意見/指摘、調べたこと」は、明確に引用の形式で書く
 - ④ 他者のことばと自分のことばを混ぜた後、「参考文献リスト」だけつけるのは×!!
 - ⑤ 引用は、どの文献から、文のどこからどこまでを引用したか、わかるように書く
 - ⑥ 研究上のニッチniche: 「今までにわかっていること」+「自分の発見」を区別
-
- 2. アカデミックな文体で書く!!
 - ✓ 中立、明確の原則
 - ✓ 中立: 「です・ます体、話し言葉」は✖ = 特定の相手に向けて語ることばだから
 - ✓ ≠ 口頭発表やE-mailは特定の相手に向けて「です・ます体」で伝える
 - ✓ 明確: 「二つの意味に取れる文」は✖ = 一文一義の原則 = 中身が大事だから
 - ✓ 文体の混在 ✖ = ほかの目的の文との違い
 - ✓ → 小説・エッセイ・Webは「わざと色々混ぜる」こともあるので注意
 - ✓ 論文・レポートでは文体を混ぜない ≡ 筆者の立場(中立・客観)がブレるから
 - ✓ アカデミックな文の目的とは = 「誤読されない」文で、目的を達成すること
 - ✓ = 論文・レポート・調査報告 ≡ 仕事の企画書・報告書
 - ✓ 明確で論理的な文章: 段落(paragraph) = 中心文(topic sentence)と支持文(support)
 - ✓ ≡ 最も言いたいことを説明や根拠やデータで支える構造
-
- 3. アカデミックな文章を読むとは?
 - ✓ 筆者の主張とその根拠を、再現できるように読む ≡ 要約+引用して「活用」
 - ✓ ≠ コピー&ペーストは✖ (剽窃=不可になる=他者のことばのドロボウだから)
 - ✓ 「主張と根拠の構造」を読み取る + 構造を自分で説明して評価しながら読む
 - ✓ ≠ N1文法の練習や○×問題だけで終わっては不十分
 - ✓ 全体の「序論」「本論」「結論」の構造を読み取る ≡ 「Q問題提起・論証・A答え」
 - ✓ ≡ 「筆者の立てた問い～問いへの考察～筆者の出した答え」構造が多い
 - ✓ 序論: 文章の導入部分。テーマや問い。
 - ✓ 本論: 文章の中心部分。具体的な内容や考察。反論・再反論も。
 - ✓ 結論: 文章の最後の部分。⁰³⁵ 本論のまとめ、明らかになったこと、評価等。

課題文章

読解 + 要約
+ 引用 / 評価の
練習

- 課題文章読解はオンデマンドで
(学部1年生 = 新書・コラムレベル)
 - ① ○×による読解の確認・宿題
 - ② (+ 文体書き換え = 水色)
 - ③ 授業で読み取り内容の確認
 - ④ (黄色・赤の部分) の後
 - ⑤ 要約引用 / 直接引用 + 解釈を宿題に
- →右は姜尚中 (2008) 『読む力』 の一部を題材にした教材例
- 他に学部基礎演習用の文章を教材化

- 読解 + 要約 用の 課題文章
- 画像

読解課題 の例①

読解課題と その要約・抽出 引用+ 評価／解釈の 課題の例 (右は配布資料)

読解・要約は 題にして、教室 では答え合わせ または担当部分 口頭で答える

振り返りもする

応用練習 (次の授業中に口頭で答えてください。) ⇐

- 書き言葉の練習: 要約は、これら以外の答えもあります。これらは答えの例です。「」(直接引用)⇐
水色の網掛け(あみかけ)部分を、論文等で使われる「だ・である体」に直してみよう。⇐
- 読解(主張と根拠の読み取り)の練習: ⇐
全体の主張と、<Part1~3>の主張と根拠(または例示や説明)を、図と要約引用で表してみよう。⇐

全体の主張: 姜(2008)は、「情報通」(と)は「知性」と同じものではなく、⇐

情報の引き出しを多く持っているだけの「『知ってるつもり』なだけの知性」と主張している。⇐

<Part1> 同書では、「情報化社会」が 1970代当時に使われ始めた「情報化社会」と同じものとは思えないほど極限まで進んだ結果、われわれは過剰な/過大な情報量に辟易(へきえき)している/直面している と述べて/指摘している。⇐

<Part2> また、⇐

PC検索が得意な小学生と機械が苦手な父親を例として挙げ、⇐

「『情報通』であること、『知性』とは別物だ」と指摘・主張している。⇐

<Part3> さらに、情報技術に通じた若者たちについても、好奇心をもたず、物事の原因と結果のいくつかのパターンを情報として蓄えているような「老け込んだ」人達がいると指摘し、これらを「知ってるつもり」なだけの知性と表現している・呼んでいる・としている。ASしている。⇐

<Part1~3>の主張と根拠(または例示や説明)に対して、賛成/反対の意見を考えてみよう。⇐

たしかに(…賛成) / しかし(…反対)、 水色網掛け部分=大島加筆・推測部分⇐

・たしかに、姜(2008)の言う通り、現代社会は情報過多である。一方で、情報を扱う「情報リテラシー」という技術的側面も必要とされており、それは単純に「知性」とは言えないのではないだろうか。⇐

(or 単なる「情報通」と「知性」という二項対立では論じられないのではないだろうか。??) ⇐

・たしかに、姜(2008)の言う通り、われわれは過剰な情報に毎日直面しており、それを多く知っていたとしても「知性」とは呼べないだろう。⇐

・たしかに、「情報通は知性ではない」という指摘には賛成だが、「知っているつもり」の知性が一概に悪いものとは言えないのではないだろうか。(なぜなら、「知っているつもり」から始まる知性の構築もありうるからである?)。つまり、たとえ「知っているつもり」段階の知性であっても、一定の価値があるのではないだろうか。⇐

・たしかに、姜(2008)の言う通り、われわれは情報過多に毎日直面しており、それを多く知っていたとしても「知性」とは呼べないだろう。なぜなら、現代では、ネットやSNSで様々な情報が入手可能である。ただし、それらは必ずしも真に必要な情報であるとは限らず、意味もなく蓄えている情報の場合もあるので、単純に「自分は賢い」と思うべきではない。したがって、「情報通」「知性」の区別は、今の時代、いっそう重要性を増していると考えられる。⇐

*感想: 短い時間にもかかわらず、皆さんが導き出した「意見」は鋭かったです!! ⇐

難しかったこと⇐

・書き言葉に置き換えるのが難しい⇐

・筆者の言ったことを変えずではいけないと同時に、要約も必要なので、難しい⇐

やりやすかったこと⇐

この文を読んで感じたこと/学んだこと この練習で感じたこと⇐

「難しい」けれども、レポートや論文やレジュメやパワーポイントの文を書くために必要な技術である⇐

「難しい」と感じるのは、日本語のレベルとして、ちょうど学ぶのに適したレベルにあるからとも言える。⇐

ポスター発表「日本のおもてなしの未来」

問題提起：人手不足などの問題で、おもてなしの先は？

現状

「日本の将来推計人口」
国立社会保障・人口問題研究所
(2017)
「カスタマーハラスメント」
「食品ロス」

「2015年1億2,709万人。出生中位推計の結果に基づけば、2040年の1億1,092万人を経て、2053年には1億人を割って9,924万人となり、2065年に8,808万」と述べている。

人手不足、またカスタマーハラスメント、旅館での食品ロスなどの問題がある。

事例（記事）1
日本の接客は世界遺産である

「外国人が日本を訪れる大きな目的の一つは世界遺産である。実は、日本の世界遺産は富士山や富岡製糸場などの有形のものだけではない。「おはようございます」や「ありがとうございます」の元気で爽やかな挨拶も「世界遺産」である」（にしゃんた 2015年）

日本のおもてなしは魅力的

事例（論文）2
ロボットホテルの可能性と課題

「AI 業界や IT 業界を中心とした記事コラムに「ホスピタリティ不要論」を目にすることがあるが、ホスピタリティは過剰にサービスを行うことではないし、パフォーマンスでもない。その場に応じた個別的な、過剰も欠如もない合理的な行為である。」
(児玉 桜代里 2020年)
ロボットは人間のように機嫌を察することができないつまり、人でのおもてなしはこれからも必要。

結論 & 分析
対策への分析

人手不足 & カスタマーハラスメント



ロボットで人手不足問題を解決できるが、おもてなしは実現できない。

食品ロス



もっと顧客のニーズに合わせる必要がある。

結論：問題があるが、それなりの価値もある。

↓個人レポートへの協働推敲・修正画面（学生の許可を得て公開）

学生Aの下書きを画面共有 + 他の学生が、展開や表現について口頭コメント 教員が画面上で修正（赤い字のところ）

いが、このレポートでは、体験型観光とは「従来の物見遊山的な観光旅行に対して、その地域でしか体験できない要素を取り入れた旅行の形態を指すもの」と定義する。体験型観光を説明する時、コト消費という言葉を知る必要がある。コト消費とは、一般的な物品を購入する「モノ消費」に対し、事や体験にお金を使う消費行為¹⁾を指す言葉である。日本の体験型観光の状況について説明すると、日本のコト消費は年々増加しているが、他国と比べると、**3分の1に過ぎない3倍も低い**数値¹⁾である。しかし、これほど低い数値とは予想以外であった。日本の観光資源は十分魅力的で、世界的になれる競争力もある。では、観光資源以外に問題があるのではないだろうか。自分は、日本の体験型観光の発信の必要性について考察し、海外の事例を見ながら、その事例の分析について述べる。←

←

2. 日本の体験型観光のさらなる発信の必要性可能性、発展に必要な取り組み←

まず、**筆者自分**は、日本の体験型観光の魅力がないと言っているわけではない。むしろ、日本の体験型観光は成長する可能性が高い。実際、観光庁の調査²⁾によると、日本での娯楽サービス費の推移は、2014年には465億円だったが、2018年になると、1734億円まで成長したという。つまり、日本の体験型観光は、毎年発展しているのである。では、このような成長をさらに促進させるためには、どうすればよいだろうか。以上のに内容通り、**筆者自分**は、日本の体験型観光の資源は十分に魅力があると考え。それで、観光資源の開発ではなく、さらに多くの観光客に日本の体験型観光を知らせることが重要だと考えた。つまり、日本だけの体験型観光を世界に積極的に発信するのである。これがなぜ重要であるなのだろうか。訪日観光客、特に、欧米など、遠い国から来た観光客は、日本について、情報がない。外国人には、飛行機代などの掲載的な負担、全く異なる文化圏への観光する文化的な負担⁰⁴⁰がある。多くの情報を提供、発信すれば、外国人をその負担をから減らせるのである。←

オンラインでの共同推敲：

- ・発言を教員が打って共有
- ・PPTやWord提出物を画面共有
- ・相互コメント後、推敲過程を画面共有

記事検索～読解の機会を増やす：

- ・大学図書館(VPN)利用を促す
- ・『日経BP』等が好評
(経営学部留学生)

読解 + 提案型のレポート用 ルーブリック (留学生日本語科目用)

評価標準	0点	1点	2点	3点	4点	5点	
A	課題文章・概念(定義)の 分析的読解・理解 と直接引用/要約引用	読んだ文章・概念をほとんど正しく理解していない	読んだ文章の要約・引用の説明と解釈はあるが、理解に間違いが多い	読んだ文章の一部分を切り取ってつなげているだけ 文章・概念を論証・提案に無理につなげている・飛躍がある	文章・概念をだいたい理解しているが、自分の分析の文と明確にわけていないところが3か所以上ある	文章・概念をだいたい理解しているが、要約・引用・説明のバランスが悪い 自分の分析の文と明確にわけていないところが少しある	文章・概念を正しく理解し、適切に要約・引用・説明し、自分の分析の文と明確にわけている
B	レポートポスター発表での日本語の表現(引用と中心文・つなぎ文)	引用と分析や意見がまざっている コピー&ペーストで書いている 引用文献リストがない	引用の表現を使うべきところで使っていないことが多い 引用と意見の表現をあまり理解できていない 引用文献リストに大きな間違いがある	何からの引用かはわかるが、どこからどこまでが引用か、わからないところが多い 引用の表現を使っているが、使い方が間違っているところが、3か所以上ある	何からの引用を、どこからどこまでしたかが、ややわかりにくい 中心文がわかりづらい部分がある	何からの引用を、どこからどこまでしたか、だいたいわかるが、分析とのつながりがわからないところがある 引用文献リストに、少しミスがある	何からの引用を、どこからどこまでしたか、明確にわかる その上で、自分の分析・提案とつなげられている 接続表現などのつなぎ・中心文に配慮がある
C	日本語の表現(書き言葉)「である・だ・する」 文体、文法、表現、書式	初級～中級レベルの、基本的な間違いが多い 例：活用形・修飾形・接続形・文体の混在	中級レベルの間違いが3か所以上ある 例：活用形・修飾形・接続形・文体の混在 母語の直訳のまま書いているところが多い	基本的な間違いが、時々ある 例：活用形・修飾形・接続形・文体の混在・名詞化や名詞句化・助詞相当句・自動詞他動詞の区別	少し不自然な日本語があるが、大きな間違いが少なく、だいたいわかる 題名・章の見出し・一字下げ等の書式でミスが3か所以上ある	少し不自然な日本語があるが、間違いが少なく、読みやすい 題名・章の見出し・一字下げ等の書式も整っている	間違いがほとんどなく、読みやすい 題名・章の見出し・一字下げ等の書式も整っている
D	提案と考察の 内容・根拠	読んでいてわかりづらい。	わかりづらい部分が少しある。具体性に欠ける。	具体性・実現可能性・根拠が弱い。新しさがあまりない。 041	だいたいわかりやすいが、一部に根拠の不足がある。予想される反論にあまり答えられていない。	わかりやすいが、根拠の提示や、反論への反駁などが、やや不十分。	よく考えられ、インパクトがある。反論に十分こたえている。根拠が明確にある 25

事例編1(基礎): ポイントと 問題点と 改善策?

◆ポイント

読み取り確認の読解から
書く(AWの)ための読解へ

(読解+引用・要約+解釈練習で)

目標(より分析的に読んで正しく引
用・根拠として利用)は概ね達成

→1年生の読解からAWにつなげうる

意欲的/少人数/関係性良好なら成
功して当然ともいえる

◆問題点 →改善策?

- ・細かい誤読は避けられない
- ・文法的誤用へのフォーカスが弱まる

・他の(一般の)科目で留学生が十分
応用できるかは未知数
→(科目横断の)継続的な支援は可能か

- ・根拠として適切な記事が見つからない
ケースもある
- ・意欲の差・興味の差が結果に影響する

→ 多人数への応用・関係性構築をどうするか
→ ワークシート・対話例などでの定型化を
進められないか

事例 2 : 論証型レポート作成のプロセスに 資料検索と 引用を AWに取り入れる

「プロセス重視」のライティング指導
各段階でのインターアクション重視 自己・相互評価 Peer Response

II. 高度教養／専門教養教育

D: 【知識の構造化を支援する
講義型授業】

講義の内容の理解を促す

記述問題 ミニツツペーパー等

I. 専門教育

【ディシプリン習得型授業】

卒業論文・研究計画書

III. 初年次／導入／

リメディアル教育

A: 【ベーシックスキル習得型授業】

ノートの取り方 レジューメの書き方

レポートの基本的形式 等

IV. 専門基礎／職業基礎教育

【専門基礎演習型授業】

実験実習レポート

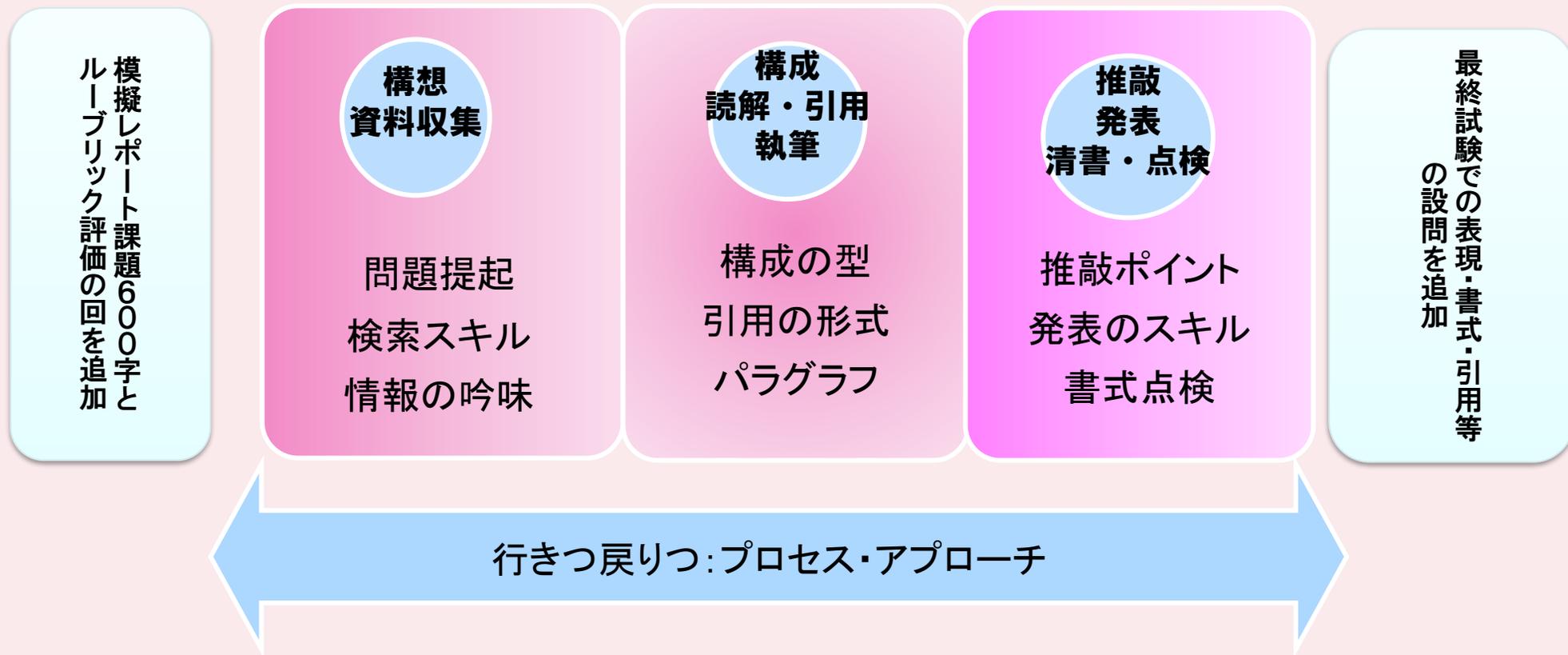
調査報告書 等

事例②の実践についての詳細は;
大島ら(2014)の教材, 大島・石塚(2022) (Webリポジトリ)
ほかをご参照ください。

← III (~IV?) の 段階の一例
初年次必修 AW科目で

構想・検索・引用・推敲を経て
発表からレポート作成へ

事例②. 「プロセス重視」のライティング指導（初年次・日本語表現科目の事例）
PR（ピア・レスポンス）協働推敲・発表への相互コメント ⇒論証型のレポート執筆
日本語母語話者（NS・L1同士） / 留学生+母語話者（NS・NNS）



論証型レポート作成のプロセスに ピア・レスポンスを入れる

ピア活動

書くプロセスは

「行きつ戻りつ」
の過程

その過程で、調べた・読んだことに基
づく主張を、難度も
口に出して伝える

相手の展開も聞くこ
とを繰り返す

次第に自分の言葉に
なっていく

知る	課題の条件・レポートの形式を知る
練る	テーマを考える, 構想をマップにする
調べる	情報・資料を検索する
絞る	問いと答えを切り出す, 目標を仮に規定する
組み立てる	目標を再検討する, アウトラインを作る
発表する	概要を発表する
書く	パラグラフを書く, 引用する
点検する	文章・表現・形式を点検する
振り返る	提出前に点検する, 自己評価する

ピア活動

ピア活動

ピア活動

ピア活動

ピア活動

ピア活動

📖 大島ら（2014） p.27

🖋️ 課題3の指示文より

15分

①話し手がマップを共有し、**関心のあるところを説明**する。

②聞き手は、以下の**質問**をし、話し合いを広げる。

ア. 「一番関心のあるところは、～ですね？」

イ. 「どうして～に関心があるの？」

ウ. 「その関心から、どんな主張をしたいと考えている？」

エ. 「その主張には、たとえばどんな証拠がありそう？」

オ. 「その主張に反対する人はどんなことを言いそう？」

★提出用シート第3課（Manaba「アンケート」）、自分と相手の発言を書き込もう。

★1人につき5分程度話したら交替しよう。★教員が巡回します。

以下、PPTに抜粋した教材は（ほとんど）大島ら（2014）
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』のための指示用のもの

📖 大島ら（2014）教科書用の指示スライド

5課・6課：アウトラインでのピアレスポンス

- ① お互いが書いたものを読みあう
- ② （書き手が読み手にざっと説明）
- ③ 読み手は、理解したことを**再生・確認**
「つまり、言いたいのは～ってこと？」「むしろ～ってこと」
- ④ 読み手は、書き手に**質問・コメント・要望**
「～について、もっと書いてよ」
- ⑤ 書き手は、読み手にさらに質問
「～のところ、どう？ わかった？」
- ⑥ もらったコメントや直すべきことを「振り返り」
シートに書き込む・原稿にマークを入れる³¹

◆実は
再生・確認が
ポイント
＝相手が何を
根拠に何をど
う主張してい
るか
＝自他の**論証**
の力が向上

📖 大島ら (2014) p.79

公刊年方式の引用の作例

引用と解釈のモデルの導入

- 初年次で経験する引用（論証型レポートの**根拠として使う**）のモデル（**文を超えて**談話なのがポイント）
- 引用＋どう捉えたか
- **典型的な**直接引用と要約引用のモデル（初年次用に簡略に提示）
 - 直接引用：表現が重要
 - 間接引用：指摘内容
 - データの出典明示
- **何のために使っているのか**を学生に**話し合わせる**（1年生＝引用初体験！）

教科書 p.79の画像



◆論証のク・ポ
チェントレスポン
ピアレスの再生・確認
(≡要約)

発表・文章の
相互コメント
で何度も繰り返
すことで

論証の力が
向上

レポートの種類と組み立て(構成)の多様性 これ以外もあり!

=客観的事実(調べたことの引用, 実験・調査結果)と主張(評価・考察)の配置に注意

		日本語表現法のレポート「論証型」 =調べたこと+主張 (pp.71-72ほか)	実験・調査レポート「検証型」 =オリジナルデータ+考察 (p.74参照)
第1章	序論	目標:テーマ選択の理由, 問題の背景, 問題提起, 目標規定文, 構成予告	目的:目的と対象の説明, 先行研究 [=研究の必要性] (テーマ選択の理由, 構成予告)
第2章	本論	**面から見たXの重要性などについて 定義・現状・仕組みなどを引用しながら説明	方法・材料・理論など:事実中心だが, 既存の方法や理論は引用
第3章		△△面から見たXの重要性/教訓Yなどを 情報・データ+評価・解釈で展開	結果:実験・調査結果のオリジナルデータ
図・表		◆情報・データ+出典をもとに図表を作成 ◆図・表から読み取れることを文章化	実験・調査のオリジナルデータをもとに図表を作成
第4章		XとYの比較考察, Zするための提案, 反駁 などを前述内容をもとに自分の論で展開	考察(結果と考察):結果の考察, 図・表の読み取り *先行研究と比較することも
第5章	結論	まとめ:問題提起への答え	結論:判明事項のまとめ
謝辞		(有益な助言をくれた人への感謝)	(調査協力者がいる場合などは書く)
引用文献		通し番号方式or公刊年方式で, 文中の使用 箇所とリストとをつなぐ	通し番号方式or公刊年方式で, 文中の使用箇所とリストと をつなぐ



事例編2(発展): ポイントと 問題点と 改善策?

◆ポイント

論証型レポートの プロセスに
ピアレスポンスは
実現可能

→ 1年生からAWにつなげうる

引用の導入は 一応できた

◆問題点 →改善策?

- ・引用をすべて正しくできているか不明
→ 色々な科目で繰り返す
- ・論証型レポートではないAWへ どう転移?
(負の転移もありうる?)
→ AWの型の 相対化自体を 学習目標に
→ (科目横断で) 基盤を共有して 目標明示
- ・意欲の差・興味の差が結果に影響する
→ 多人数への応用・関係性構築をどうするか
→ 色々な科目で繰り返す
→ サポートする

事例編 3 (論文入門期) : 論文読解 (共通・個別) ⇒ ジャンルの特徴の理解 ⇒ AWに結びつける

学習者がジャンルについて「気づく」/論文の文を機能別に自分で色分け
自分の分野の「引用・考察」の特徴を説明

II. 高度教養/専門教養教育

D: 【知識の構造化を支援する

講義型授業】

講義の内容の理解を促す

記述問題 ミニツツペーパー等

I. 専門教育

【ディシプリン習得型授業】

卒業論文・研究計画書

事例③についての詳細;

論文の類型・表現例については、佐藤ら(2013)、山本・二
通(2015)、大島(2016)、生天目・大島(2019)ほか
をご参照ください。

事例③は、神戸大学での2022年2月の報告と同内容です。

III. 初年次/導入/

リメディアル教育

A: 【ベーシックスキル習得型授業】

ノートの取り方 レジューメの書き方

レポートの基本的形式 等

IV. 専門基礎/職業基礎教育

【専門基礎演習型授業】

実験実習レポート

調査報告書 等

← I の論文・準備段階の一例

3・4年次、研究生、M1留学生等

論文の入門期の
読解 (構造・表現理解)

事例3(論文入門期)

- 活動の流れ (集中授業の例)
 - 「論文の入門」とは? (省略)
 - 活動の目的 (省略)
- 論文の基礎知識
 - 論文とは?
 - 文体クイズ (省略)
 - 論文の構造のタイプ

- 「色ぬりメソッド」 導入部分の案
 - 論文例(介護)の概要
 - やり方の説明(Word)
 - 1章、2章を一緒にやろう
 - 特徴的な表現は?
- 活動部分の案
 - 3章、4章を分担してやろう(個人作業)
 - 同じ個所の分担者の話し合い
 - 色ぬりの例(講師による)との比較

◆参加者への注意

このスライドの事例は、主に社会科学系の事例調査を行う分野の学生向けです。

これは **一つの例**です。

分野・研究手法によって 構造・表現には ちがひがあります。

実践・作成の際には、 専門分野の先生に確認を取ってください。

スライド中の * 印の例文は、二通ら(2009)を使っています。

二通信子ら(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文ハンドブック』

東京大学出版会 2500円＋税

「論文の入門」指導の一案

(日本語の構造と表現の面から) * 以下の事例は神戸大学FDで紹介したものと同内容

- 「論文読解と作成のためのスキル」を意識させる
 - 論文執筆の基本ルールを確認しよう
 - 自分の分野の論文のタイプを知ろう
 - よく使われる表現に注目！ 色ぬりワーク＝結果のシェア
 - モデル論文(事例分析型) (このスライドの例は、立命館大学 大塚陽子先生 ご提供)
- 以下では、「色塗りメソッド」(仮名)を利用した指導案を紹介
 - 半日程度のワークショップでの実践 (大学院留学生やその予備軍向け)
 - 1学期間の授業での実践(学部2～3年生向け)
- 次頁からは、指導時のPPTから抜粋して紹介
 - (水色の背景の頁は掲示のみ。DLなし。
—それぞれの実践の対象者に合わせて例を変えてください。)

論文とは何か... あなたの考えは？

課題について、今まで言われていなかった**新しい**事柄を、**根拠**をもとに、**主張**する文章

ポイント①
説明の分かりやすさ

ポイント②
論理展開の明解さ

- ・研究課題を明確にする
- ・主張内容を分かりやすく明確な根拠を挙げて説明する
- ・どのように新しいかを説明する
- ・主張内容の重要性を説く

文体

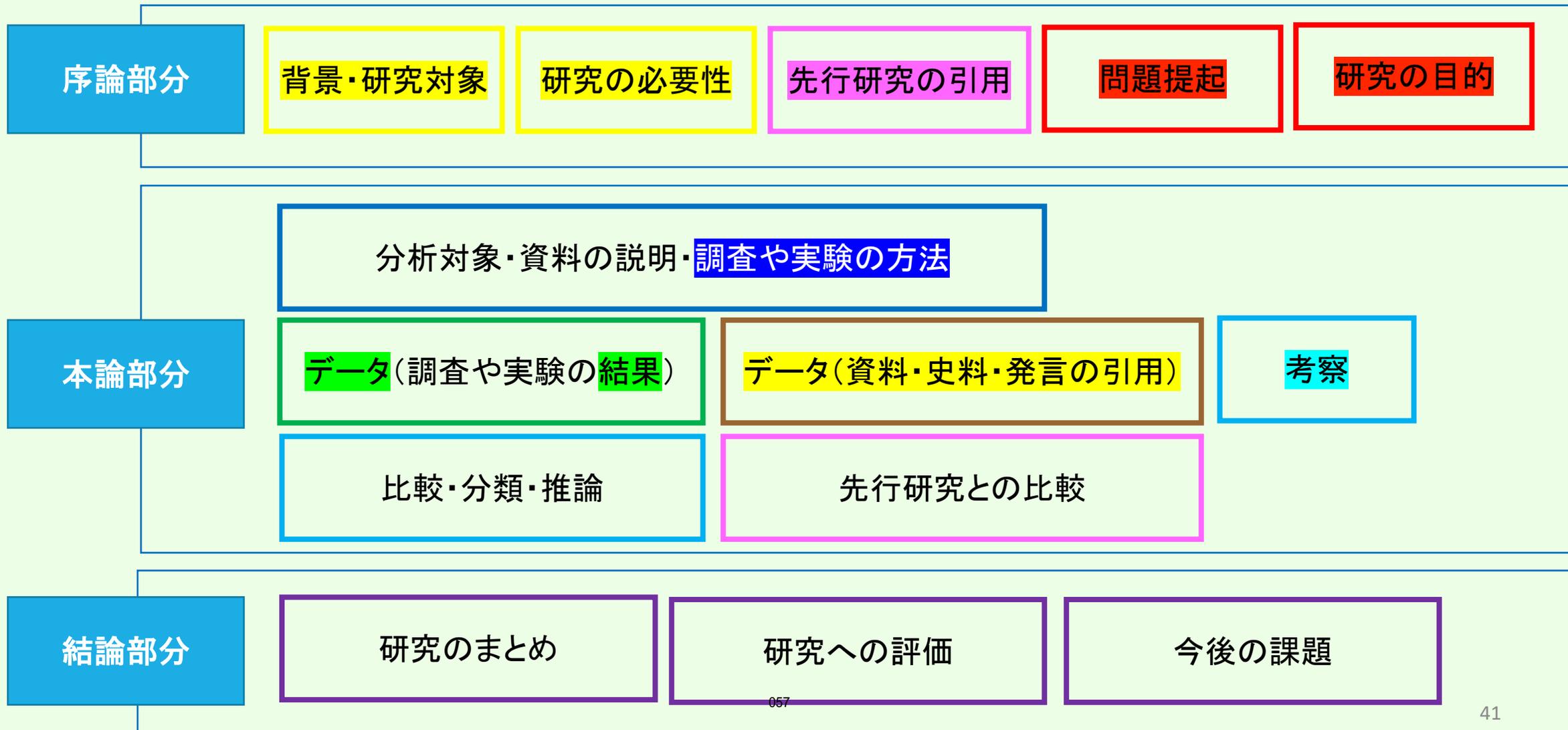
構造

読み手に伝わる表現

論文とは何か

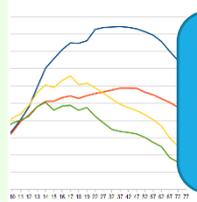
構造 = 以下は一例なので、いつも同じではない
見やすいように、色分けしてみよう

(参考: 二通ら2009『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会)



あなたの分野の論文はどのタイプ？

=以下は代表例。これだけではない。理論型・レビュー型も。



A:統計分析型

- 背景・目的
- 理論・先行研究
- (調査対象・方法の説明)
- 統計(引用・調査)・解釈
- →考察(特徴記述・分類)
- 統計(引用・調査)・解釈
- →考察(特徴記述・分類)
- ...
- 総合考察・分類(+引用)
- 結論・提言・課題



B:歴史叙述型

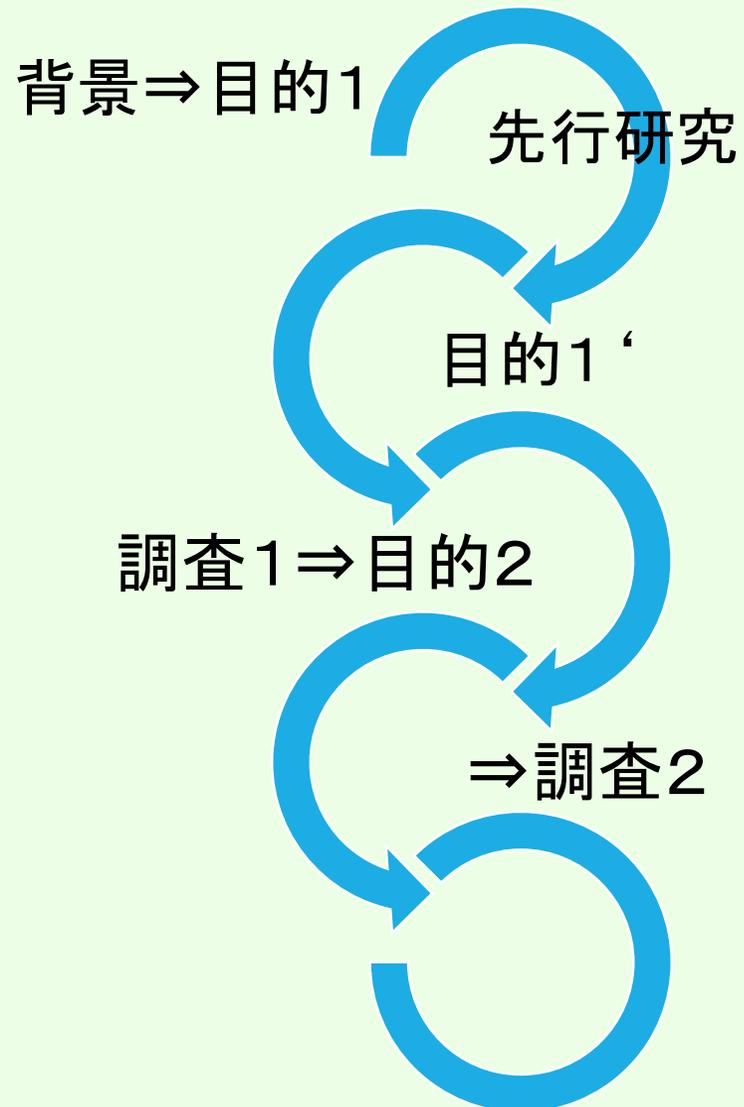
- 背景・目的
- 理論・先行研究
- (史料の説明)
- 史料の引用・解釈
- →小括
- 史料の引用・解釈
- →小括
- ...
- 総合考察(+引用)
- 結論・提言・課題



C:事例分析型 (複合型)

- 背景・目的
- 理論・先行研究
- (対象・調査方法)
- 状況の説明(引用)
- 事例調査・引用・
- 解釈→小括
- 事例調査・引用・
- 解釈→小括
- ...
- 総合考察(+引用)
- 結論・提言・課題

問い(目的)⇒(どんな方法・結果・解釈から)⇒結論 を読み取る
中には、構造が 螺旋(らせん)になっているケースもある



- 背景・必要性から目的1を設定
- 先行研究から目的1を再考
- 詳しい目標規定文やリサーチ・クエスチョンはここで入れる？
- (分野・分量によって出現箇所が異なる)
- 調査1によって新しい目的2を設定
- 目的2に対する調査2を設定
-

注意！ 引用○ 剽窃(ひょうせつ)× !!

高齢者の介護をおこなう人材として真っ先に期待されるのが、家族である。しかしながら、経済成長や都市化とともに家族規模が縮小し、家族機能が脆弱となるなかで、社会全体で高齢者介護を担う必要性が出てくるようになった。

大塚陽子・諶齡彦(2017)「介護労働者としての女性の役割に関する国際比較ーデンマークと中国を事例としてー」
『政策科学』24(3), 221-233.

• これは剽窃×!!

- 高齢者の介護をおこなう人材として真っ先に期待されるのが、家族であるが、経済成長や都市化とともに家族規模が縮小し、家族機能が脆弱となるなかで、社会全体で高齢者介護を担う必要性が出てくるようになった。そこで、本研究では…

• これは引用○ <http://hdl.handle.net/10367/8228>

- 例：大塚・諶(2017)は、高齢者の介護をおこなう人材として真っ先に期待されるのが家族であり／であるとし、経済成長や都市化とともに家族規模が縮小し、家族機能が脆弱となるなかで、社会全体で高齢者介護を担う必要性が出てくるようになったことを指摘している。そこで、本研究では…

- 区分明確性＝「どこからどこまで」が何・誰からの引用かがわかる
- 主/従＝ 書き手の文章が主、引用が従 書き手の文章>>引用
- 必要性＝ そこで引用する必要がある

まず論文を読もう 内容＋構成＋表現…

内容(いつものゼミ?)

内容を読んで

何をどう調べて

何がわかったか

レジュメにする

報告する

構成に注意して読む

構成の特徴を理解

序論・本論・結論

目的・方法…

考察1・2・3…

論文タイプの差に注意！

表現に色を付けて読む

表現の特徴を理解

目的の頻出表現

結果の頻出表現

考察の頻出表現…

論文の手法による違いに注意!!

今回の論文に色を塗ってみると・・・

(大塚・謙2017より) DLなし

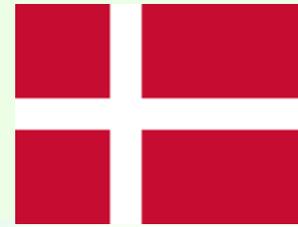
<http://hdl.handle.net/10367/8228>

- 論文に色を塗った例 画像



今回の論文の構成 今回の論文の例

C事例分析・複合型 (介護の国際比較 大塚・諶2017)



- ・ 背景・目的
- ・ 理論・先行研究
- ・ (対象・調査方法)
- ・ 状況の説明(引用)
- ・ 事例調査・引用・
- ・ 解釈→小括
- ・ 事例調査・引用・
- ・ 解釈→小括
- ・ ...
- ・ 総合考察(+引用)
- ・ 結論・提言・課題

1. はじめに
2. 介護労働と福祉国家における女性の役割
3. デンマークにおける…
 - 3.1 デン…労働者現状
 - 3.2 オーデンセ市…
 - 3.3 考察
4. 中国における…
 - 4.1 中国…労働者現状
 - 4.2 大連市…
 - 4.3 考察
5. おわりに

- ・ 状況の説明(介護・福祉国家・ジェンダー)
- ・ 理論(福祉レジーム論)⇒着目点・目的・調査地
選択理由
- ・ 先行研究(類型・落合2008)⇒推論・仮説
- ・ (デン)現状(統計資料)+数値の解釈
- ・ (オー)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査
- ・ 考察 (デン+オーの 女性の役割)
- ・ (中国)現状(先行研究)+解釈
- ・ (大連)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査
- ・ 考察 (中国+大連の 女性の役割)
- ・ 結論(判明点)・課題(調査の限界)・提言

今回の論文の構成 ⇒ 1. と 2. を一緒に見てみよう

C事例分析・複合型 今回の論文の例(介護の国際比較 大塚・諶2017)



- 背景・目的
- 理論・先行研究
(対象・調査方法)
- 状況の説明(引用)
- 事例調査・引用
解釈→小括
- 事例調査・引用
解釈→小括
- ...
- 総合考察(+引用)
- 結論・提言・課題

1. はじめに

2. 介護労働と福祉国家における女性の役割

3. デンマークにおける...

- 3.1 デン...労働者現状
- 3.2 オーデンセ市...
- 3.3 考察

4. 中国における...

- 4.1 中国...労働者現状
- 4.2 大連市...
- 4.3 考察

5. おわりに

- ・ **状況の説明(介護・福祉国家・ジェンダー)**
- ・ **理論(福祉レジーム論)⇒着目点・目的・調査地
選択理由**
- ・ **先行研究(類型・落合2008)⇒推論・仮説**

- ・ **(デン)現状(統計資料) + 数値の解釈**
- ・ **(オー)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査**
- ・ **考察 (デン+オーの 女性の役割)**

- ・ **(中国)現状(先行研究) + 解釈**
- ・ **(大連)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査**
- ・ **考察 (中国+大連の 女性の役割)**

- ・ **結論(判明点)・課題(調査の限界)・提言**

活動の説明 色分けの例

- ① 論文を 色分けしてみる (解釈が微妙な場合もあるので**正解は一つではない**)
- **対象・状況・背景的事実の説明** (統計資料・公的資料などを用いることも)
 - **目的／研究の必要性／研究行動の予告** (次に何を書くか・前に書いたか) = **メタ言語**
 - **先行研究の引用** (色があれば、「理論・研究論文」と**一次資料・史料**を分けると便利)
 - 調査や実験の**方法・材料・調査地選択理由の説明**・分析枠組みの説明
 - 筆者が行った調査・実験の**結果の説明** = (筆者の主観がない、事実記述)
 - **解釈・考察・推論** (考察対象の前にも後ろにも来る) (一文中に「結果＋考察・**評価**」もある)
 - **結論・今後の課題・提言**
- ② 書かれた内容について 要素を言葉にしてメモをする

論文によく使われる表現(研究対象・目的) * =二通ら2009

- [研究対象]は [説明]である/ の一種である/ として知られている。*

- **そこで本論は、 ~検討するとともに ~について 明らかにしたい。**他の論文から



- したがって、**本研究**は、福祉レジームを動的にとらえながら、高齢者介護政策をめぐって
- 福祉国家が女性の役割をどのように位置づけているのかを、諸外国の事例から**検討することを**
- **目的とする**。本稿における事例としては、福祉先進国として高齢者介護が国家の役割となっ
- ているデンマーク、および急速な高齢化・都市化が進展するなかで一人っ子政策による世代が家
- 族介護者となりつつある中国を検討する。 大塚・謙

- 本論/本稿/本研究は ~の可能性について 検証するものである。他の論文から
- 本章では、~を検証することで、~について明らかにしていくこととする。他の論文から

序論によく使われる表現(先行研究の提示) * =二通ら2009

- [研究課題]には、多くの/一連の 研究の蓄積がある。*
- ~の理論としては、~が最も有名であり、~として研究されてきた。他の論文から
- 著者名(2000)によれば、~である⁽¹⁾。 ~という⁽¹⁾。
- [先行研究]は[知見]と している /述べている/指摘・報告・評価している。*
- これらの先行研究が示しているのは、[解釈]ということである。*
- [研究対象]については、まだ十分には検討されて/わかって いない。*
- 福祉国家とジェンダーに関しては、これまでフェミニストによる多くの研究蓄積がある。…しかしながら、介護労働が現実として女性の役割となり、それによって高齢化する福祉国家が維持されていることを考えれば、福祉国家における介護労働者としての女性の役割、すなわち、福祉国家が女性をどのような介護労働者として位置づけているのかを議論することは、価値があるように思われる。大塚・謹
- 女性をめぐる公私領域における介護の担い手の循環を検討するには、落合(2008)が実施した福祉社会学のウェルフェア・ミックス論と家族社会学によるケアをめぐる社会的ネットワーク分析を接合した研究が有用だと思われる。
- 落合は高齢者のケアをめぐる社会的ネットワークについて、アジア6カ国において高齢者が得ている生活援助を、ケアの担い手あるいは供給主体の主な種類として、子ども、子どもの配偶者、親族、コミュニティ、家事労働者、施設の6種類に分けて論じている。
- 落合は、アジア6カ国に共通していえるのは、施設介護がある程度定着しても、子どもが重要な役割を果たしていることには変わらないが、親族ネットワークの構造は、相統制度⁰⁶⁷の違いによってかなり異なっていると指摘する。



本論によく使われる表現(方法・材料／調査対象) * =二通ら2009

- 本研究では, [先行研究]の 枠組み/アプローチ/手法 を採用する/を用いる/に準ずる。*
- 当地域を本論の研究対象とした理由は, ～～について明らかにするためである。他の論文から
- **本調査は, ～に対して実施し, ～が調査対応者である。**他の論文から
- **株式会社Aは, ～～で, ～～事業展開している。**他の論文から



- **このような問題意識のもとで、大塚・謙らは2016年11月17日～19日に大連市において正規雇用と家族介護をおこなう女性たち7人に聞き取り調査をおこなった。**



- **中国においては公共機関を通じた聞き取り調査の実施は困難なため、私的ネットワークを使って東北財経大学に正規雇用で勤務する教員6名と職員1名に、1人につき30分～1時間ほどの聞き取りに協力してもらった。**
- **7名のうち、50代が4人、30代が3人であった。**



- **質問項目としては、日常生活における仕事と介護の両立、高齢者ケアをめぐる社会的ネットワークを構成するアクターとの関係を中心に語ってもらった** 大塚・謙p.227



活動の説明 色分けの例

- ① 論文を 色分けしてみる (微妙な場合もあるので**正解は一つではない**)
 - **対象・状況・背景的事実の説明** (統計資料・公的資料などを用いることも)
 - **目的／研究の必要性／研究行動の予告** (次に何を書くか・前に書いたか) = **メタ言語**
 - **先行研究の引用** / (色があれば、「理論・研究論文」と**一次資料・史料**を分けると便利)
 - 調査や実験の**方法・材料・調査地選択理由の説明**・分析枠組みの説明
 - 筆者が行った調査・実験の**結果の説明** = (筆者の主観がない、事実記述)
 - **解釈・考察・推論** (考察対象の前にも後ろにも来る) (一文中に「結果＋考察・**評価**」もある)
 - **結論・今後の課題・提言**
- ② 書かれた内容について 要素を言葉にしてメモをする

やってみよう（活動）

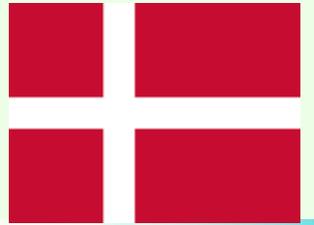
- Wordファイルの 3章, 4章について, 色分けとメモを作ってみよう。
- 個人作業(分担部分Wordを読んで、色をぬり、内容のメモを書く)約10分
- グループ(自己紹介(専門・出身)全員⇒画面共有⇒意見交換)約20分
- 報告(グループから代表者1名が他の人に報告)約20分
 - 早くできたら他の個所もぬってみる。同じ言語の人なら日本語以外もOK。
- 分担
 - 3.1 デンマーク
 - 3.2 オーデンセ市
 - 3.3 考察
 - 4.1 中国
 - 4.2 大連
 - 4.3 考察
- 個人作業⇒ グループで意見交換(画面共有) ⇒報告
- 色分けは正解が一つとはかぎらない。**なぜそう思ったか**を説明！
- 他の論文でも使えそうな**便利な表現・新しく知った表現**にマーク

オーデンセ市 画像

大連市 画像

今回の論文の構成 ⇒ 1. と 2. を一緒に見てみよう

C事例分析・複合型 今回の論文の例(介護の国際比較 大塚・諶2017)



- 背景・目的
- 理論・先行研究
(対象・調査方法)
- 状況の説明(引用)
- 事例調査・引用・
解釈→小括
- 事例調査・引用・
解釈→小括
- ...
- 総合考察(+引用)
- 結論・提言・課題

1. はじめに

2. 介護労働と福祉国家における女性の役割

3. デンマークにおける…

- 3.1 デン…労働者現状
- 3.2 オーデンセ市…
- 3.3 考察

4. 中国における…

- 4.1 中国…労働者現状
- 4.2 大連市…
- 4.3 考察

5. おわりに

- ・ **状況の説明(介護・福祉国家・ジェンダー)**
- ・ **理論(福祉レジーム論)⇒着目点・目的・調査地
選択理由**
- ・ **先行研究(類型・落合2008)⇒推論・仮説**
- ・ **(デン)現状(統計資料) + 数値の解釈**
- ・ **(オー)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査**
- ・ **考察 (デン+オーの 女性の役割)**
- ・ **(中国)現状(先行研究) + 解釈**
- ・ **(大連)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査**
- ・ **考察 (中国+大連の 女性の役割)**
- ・ **結論(判明点)・課題(調査の限界)・提言**

今回の論文の構成 ⇒ 1. と 2. を一緒に見てみよう

C事例分析・複合型 今回の論文の例(介護の国際比較 大塚・諶2017)



- 背景・目的
- 理論・先行研究
(対象・調査方法)
- 状況の説明(引用)
- 事例調査・引用・
解釈→小括
- 事例調査・引用・
解釈→小括
- ...
- 総合考察(+引用)
- 結論・提言・課題

- はじめに
- 介護労働と福祉国家における女性の役割
- デンマークにおける…
 - デン…労働者現状
 - オーデンセ市…
 - 考察
- 中国における…
 - 中国…労働者現状
 - 大連市…
 - 考察
- おわりに

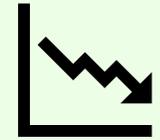
- 状況の説明(介護・福祉国家・ジェンダー)
- 理論(福祉レジーム論)⇒着目点・目的・調査地
選択理由
- 先行研究(類型・落合2008)⇒推論・仮説
- (デン)現状(統計資料)+数値の解釈
- (オー)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査
- 考察 (デン+オーの 女性の役割)
- (中国)現状(先行研究)+解釈
- (大連)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査
- 考察 (中国+大連の 女性の役割)
- 結論(判明点)・課題(調査の限界)・提言

本論によく使われる表現(統計資料等の背景的事実の説明 + 考察)



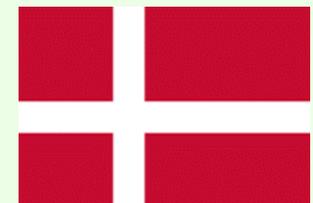
- ~はX [数値]である/となっている。* (～であり/となっており, ～)
- ~の労働力率は、2014年現在で女性70.5%、男性76.9%である。大塚・謹
- ~従事者数は2000年から年々増加して2010年には15万9,812人になったものの、2011年に15万3,707人となり、減少傾向にある。
- ~の性別内訳をみると、2013年では総数3万4,939人のうち女性が3万2,503人と93%を占める。
- 学士以上レベルで学ぶ学生であっても、女性は2,251人中1,623人と72%を占めているため、学歴よりも専門領域にジェンダー偏倚があることがわかる。
- このように、介護労働者のおかれた状況だけではジェンダー問題は特にみられない。むしろ～

本論によく使われる表現(結果+考察・解釈)



<調査した事例・事実の記述 + 考察>

- ~同社製品は~であり, ~は行っていない。他の論文
- 最後に, 同社の~戦略として, ~販売がある。他の論文
- つまり, 同社は~より幅広く獲得することで, ~ブランドとして, 幅広い業界に受け入れてもらえるように事業を拡大している。他の論文
- こうした戦略は, 同社の~優位獲得につながっている。他の論文 =
評価・原因の推測
- 大塚が2013年8月20日に市の高齢者~部~課に**対しておこなった聞き取り調査によれば**, デンマークの~ではおよそ6,000人分の介護人件費が削減され、その分の費用は~介護に重点的に充てられた**という**。市においても訪問介護労働者の解雇は増加し、デンマークでは~が2年間に短縮された。彼女らの多くが~再就職が困難なことから、~スタッフも増加してきた**という**。
- 介護労働者数の削減は**おこっているのである**。



今回の論文の構成 ⇒ 1. と 2. を一緒に見てみよう

C事例分析・複合型 今回の論文の例(介護の国際比較 大塚・謨2017)

背景・目的

理論・先行研究

(対象・調査方法)

状況の説明(引用)

事例調査・引用

解釈→小括

事例調査・引用

解釈→小括

...

総合考察(+引用)

結論・提言・課題

1. はじめに

2. 介護労働と福祉国家における女性の役割

3. デンマークにおける...

3.1 デン...労働者現状

3.2 オーデンセ市...

3.3 考察

4. 中国における...

4.1 中国...労働者現状

4.2 大連市...

4.3 考察

5. おわりに

・ 状況の説明(介護・福祉国家・ジェンダー)

・ 理論(福祉レジーム論)⇒着目点・目的・調査地
選択理由

・ 先行研究(類型・落合2008)⇒推論・仮説

・ (デン)現状(統計資料)+数値の解釈

・ (オー)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査

・ 考察 (デン+オーの 女性の役割)

・ (中国)現状(先行研究)+解釈

・ (大連)現状(統計資料)⇒解釈 聞き取り調査

・ 考察 (中国+大連の 女性の役割)

・ 結論(判明点)・課題(調査の限界)・提言

結論によく使われる表現(結論の提示・評価, 今後の課題) * =二通ら2009

- 以上/本研究では, [研究課題]を/について 検討/考察 してきた。*
- [研究課題]から, [解釈] が うかがえる/示唆される/ (の)可能性が示唆された。*
- [結果]は~に応用/適用できるものと 期待される。*
- 今回の研究では, ~がなく, ~が薄いという課題も発見された。この点は, ~を今後の研究で実施することにより, より確かな理論導入の可能性, 必要性の導出に繋げたい。
他の論文
- 本稿では、高齢者介護政策をめぐって福祉国家が女性の役割をどのように位置づけているのかを、介護労働者と家族介護者との関係からデンマークおよび中国について検討してきた。大塚・謹
- デンマークも中国も、日本とは異なり、~~、前者が~~を維持するため、女性に~~保障したのに対し、中国では、~~労働となっている特徴は明らかになった。大塚・謹



076



4. 2. 大連市における高齢者ケアをめぐる社会的ネットワークの現状

大連市は東北地域・遼寧省の南部に位置する、中国では14番目の規模の特大都市³⁾である。人口は699万人で、貿易・情報産業・観光が主な産業となっている。市は1987年から高齢化社会となり、2015年の総人口に対する60才以上の人口比率は22.9%で、遼寧省内では最も高齢化が進んでいる。要介護高齢者数は24万人であるが、高齢者介護施設は不足しており199カ所・2万2,879床しかない。大連市は近年、社会的ケアシステムを構築しようと試行しているが、財政難により、生活困窮者を救済するのみに留まっている。市内における介護専門学校は大連職業技術学院1カ所のみで、大連市の養老護理員資格者を2014年までに2,830人輩出しているが、その多くが介護職を離職して他の職業に転職している(曹 2014)。

このような現状において女性たちはどのような社会的ネットワークで高齢者介護をおこなっているのだろうか。このような問題意識のもとで、大塚・諶らは2016年11月17日～19日に大連市において正規雇用と家族介護をおこなう女性たち7人に聞き取り調査をおこなった。中国においては公共機関を通じた聞き取り調査の実施は困難なため、私的ネットワークを使って東北財経大学に正規雇用で勤務する教員6名と職員1名に、1人につき30分～1時間ほどの聞き取りに協力してもらった。7名のうち、50代が4人、30代が3人であった。質問項目としては、日常生活における仕事と介護の両立、高齢者ケアをめぐる社会的ネットワークを構成するアクターとの関係を中心に語ってもらった。

その結果、調査対象者7人中5人が既にダブルケア、すなわち2人のケア依存者(たとえば、実母と義母、実父と子ども)の世話をしている状況であった。ただし、7人中6人は主たる家族介護者ではなく、要介護高齢者の配偶者および兄弟姉妹と介護をシェアしていた。主たる家族介護者である1名も、姉妹と半年交代で主たる家族介護者の役割を担っていた。長男など特定の子どもおよびその配偶者に介護負担が集中する日本とはこの点が大きく異なり、確かに兄弟姉妹ネットワークの強さはみられた。しかし、30代の調査対象者のうち2名は一人っ子世代である。調査対象者の老親の要介護レベルは日本の要介助2～要介護2くらいであったが、

色塗り例：

担当した学生に、画面共有して説明してもらう
⇒ 色分けが少し違ってても、意図が説明できればOK

段落内・複文内に異なる構成要素が出ることもある

気がついたことを話し合おう

1. 自分の分野(研究手法)の論文／この論文の
 1. 構成の特徴は？
 2. 表現の特徴は？
2. 今日、気がついた/学んだ
 1. 新しいことは？
 2. 新しい表現は？
3. 自分がこれから論文を書くために、日本語の面でできることは？



学生の反応

- ・「論文にこんなに引用がたくさんあるとは思わなかった」(学部生)
- ・「教科書にある文型が実際に使われている」(学部生)
- ・「構造と表現がわかると、速く読めるようになった」(院生)
- ・「自分と分野は異なるが、構造や表現は似ている」(院生)
- ・「英語の論文を読むのが速くなった」(院生)
- ・「自分は結果・考察が単調だったが、他の表現を知れた」(院生)
- ・「考察にも、また引用が出てくる」(院生)
- ・「引用と考察の間のような部分もあるとわかった」(院生)

実践なさる先生方へ（留意点）

別の論文での応用へ向けて

・実践のポイント

- ・ 学習者のレディネス：「論文」をまったく知らないとおそらく混乱する。
- ・ ちょうどよい導入期：学部3・4年、M1、研究生など、先行研究を読み、自分の研究計画を書き始める時期がよさそう？
- ・ 留意点：事前準備（論文をざっと読んでおく）時間があつたほうがベター
- ・ 留意点：「唯一の正しい答え」として教えない!! あくまで手段。相対的
- ・ 長期（15Wなど）へ向けて：共通論文で構造と表現をとらえて + 各自に選ばせた論文の色塗り（作業中に質問を受ける） + 発表と質疑 + 書く？
- ・ 選んだ論文を事前に確認（展望や教科書的なものは構成要素が異なる）
- ・ ただし、表現・文法的正誤にはFBするが、研究内容にはO×を言わない!

事例編3(論文入門期): ポイントと 問題点と 改善策?

◆ポイント

論文入門期として
構造の読解と 表現抽出から
気づきを促すことは
一応できそう

ただし、入門を少し容易にするだけ
(ざっくりとした 理解)

AWに頻出する文法的誤用には
別の手当てが必要

◆問題点 →改善策?

- ・内容を十分に正しく 読解できたか 不明
- ・本当に 適切に構造を 分析できたか 不明

- ・その分野での論証・検証・実証をどう表現するかは、その分野・手法によって異なる

→ この経験をもとに 専門教育で 繰り返す
→ 学習者自身がさらに意識化する

→ 教える側が 対象を 相対化する
→ 専門分野の教員・TAと 協働する

まとめと 今後の課題 編

- ◆ Qそれぞれの段階のAWで（学習者は）何を考え、何を行っているのか？
 - ◆ 初年次にも/からでも 経験できる **読解～AW**がある
 - ◆ 書くだけでなく、読み手と話し合う活動（**協働学習**）は、おおむね効果的
 - ◆ 話し合う・**口に出す**ことで、単純な剽窃を少しは防げるかも？
 - ◆ ただし、AWと活動は、繰り返すと（講義・専門）科目との**連携・目的の明示**が必要！！
 - ◆ 先輩やゼミ生同士等、コミュニティやインターアクションの中での学び（言語社会化）も
- ◆ Q読解とライティング（AW）をどのように結び付けるか？
 - ◆ 書くだけ・読むだけでなく、**読解に基づくAW**は おおむね可能、かつ必要
 - ◆ そのとき、**引用～解釈**の談話（連続体）を 理解させる方が、（単文より）おそらく効果的
 - ◆ 読解での（論証の）**構造の読み取り経験**が、AWの際にも、おそらく役立つ
 - ◆ 科目・学年を超えて、（様々な課題で）繰り返す中で、**意識化・相対化・熟達**する
 - ◆ そのために、繰り返し、**気づきを促す**

以下のレポート構成例を採点してみてください。ABC/F? (学部1年生/留学生とする)

1. オーバーツーリズムの概要：オーバーツーリズムは何か、どのような問題を引き起こすかについて説明する。
2. 原因：オーバーツーリズムが引き起こされる原因について説明する。例えば、観光客の多い場所に向かう需要の増加、移動手段の発展などがある。
3. 影響：オーバーツーリズムがもたらす影響について説明する。例えば、自然環境の損傷、地元のコミュニティに対する影響などがある。
4. 対策：オーバーツーリズムの問題を解決するために取られる対策について説明する。例えば、観光客数を制限すること、再生可能エネルギーの採用、地元のコミュニティを支援することなどがある。
5. まとめ：オーバーツーリズムの問題についての概要、原因、影響、対策についてまとめる。

オーバーツーリズムを解決するためには、様々な対策が提案されています。以下はいくつかの代表的な解決策です：

1. 観光客数の制限：特に負担が大きい観光地に対して、観光客数の制限を設けることでオーバーツーリズムを抑えることができます。
2. 地元コミュニティの支援：地元のコミュニティが観光客に対する影響を最小限に抑えるために、彼らが収益を得ることができるよう支援することが大切です。
3. 環境保護措置：観光地において、自然環境を保護するための措置を講じることが必要です。例えば、再生可能エネルギーの採用、排水問題の解決などがあります。
4. 持続可能な観光の確保：長期的な観光開発を行うためには、持続可能な観光の方法を推進することが大切です。例えば、エコツーリズムなどがあります。
5. 教育：観光客に対して、環境保護や地元コミュニティへの影響などについての教育を行うことが大切です。

これらはいくつかの代表的な解決策であり、地域や観光地に応じて適切な対策を選択することが大切です。

以下のレポート例(本文)を採点してみてください。② ABC/F?(学部1年生とする)

課題① Z世代にとってのナショナル・アイデンティティーの形成と意義は何か、レポートを書け。

「レポート：Z世代のナショナル・アイデンティティーの形成と意義」

Z世代（1997年から2012年に生まれた人々）は、グローバル化の時代に生まれ、国境を超えた情報と交流が可能な技術の進歩によって、過去の世代に比べて多様な文化や価値観に触れることができます。このような状況から、彼らは自身のナショナル・アイデンティティーを形成することが難しいと感じます。

しかし、Z世代は、自身が属する国や文化に対する誇りや、自身と同じ価値観を持つ人々との結びつきを求めています。彼らは、地域社会や文化、歴史などを通じて、自身のアイデンティティーを形成することが大切だと感じています。

さらに、Z世代は、多様な文化との交流や理解を通じて、世界の課題を共に解決することが大切だと考えています。彼らは、国境や文化の違いを超えた協力や共生を重視し、グローバルな視点を持ったアイデンティティーを形成することが大切だと考えています。

以上が、Z世代のナショナル・アイデンティティーの形成と意義に関する私のレポートです。

以下の論文要旨の例を採点してみてください。③ ABC/F? (仮に大学院入試とする)

課題③ 日本語と中国語の文末モダリティの習得に関する仮説検証型論文の 卒論について説明しなさい。

論文：日本語と中国語の文末モダリティの習得

要旨：本研究は、日本語と中国語の文末モダリティの習得に関する仮説を検証することを目的としています。本研究では、学習者が文末モダリティを習得する際に影響を与える要因についての比較検討を行います。これにより、学習者が文末モダリティを習得する際のストラテジーやアプローチに関する指針を示すことが期待されます。

方法：本研究では、質問紙調査とグループ・インタビューを用いて、学習者の文末モダリティの習得過程を把握しました。また、文末モダリティの使用に関連する語用行動、文化的背景、言語意識などの要因についても検討しました。

結果：結果によりますと、日本語と中国語の文末モダリティの習得に影響を与える要因は異なることが示されました。日本語の場合、文化的背景や言語意識が大きな影響を与えることが判明しましたが、中国語の場合は、語用行動や文化的背景に関連する要因がより重視されることが示されました。

結論：本研究の結果から、日本語と中国語の文末モダリティの習得に影響を与える要因は異なることが示されました。このことから、学習者が文末モダリティを習得する際には、その言語に関連する文化（後略）

種明かし：これらの「レポート」と「卒論」要旨を書いたのは、「ChatGPT」さんでした。

課題① Z世代にとってのナショナル・アイデンティティーの形成と意義は何か、非丁寧体のレポートを書け。

⇒先ほどの例

課題② あなた自身はZ世代としてどのようにナショナル・アイデンティティーを構築してきたか、社会的な影響の例をふまえて論じなさい

申し訳ございませんが、私は人工知能モデルであり、自身の意識や経験はありません。私は学習データを基に回答を生成することだけができます。

課題③ 日本語と中国語の文末モダリティの習得に関する仮説検証型論文の 卒論について説明しなさい。

⇒先ほどの例

課題④ 日本語「ね」と中国語「吧」の比較を通じた文末モダリティ使用実態に関する談話分析の論文を書け

申し訳ございませんが、私は文字情報だけから長文の論文を書くことはできません。論文を書くには、豊富な知識と研究結果が必要です。代わりに、提供できるのは文末モダリティに関連する一般的な情報や提案する研究方法などを含む指導的なアドバイスです。

AWと読解の AI時代の 課題（杞憂？）

◆ ITと AIは日進月歩 ⇒ その中で（英語以外の）外国語を（会話目的以外に）学ぶ意味は何なのか？

◆ AIはここまで来た！ <https://openai.com/blog/chatgpt> <https://chatgpt.pro/ja>

◆ 「司法試験も期末試験もMBAもChat GPT Chat GPTは昨年11月一般リリースになるなり1週間待たずにダウンロード100万回の大台に乗り、学生にも大量にダウンロードされました。カンニングを心配したNY、シアトルの教育委員会が学校での使用を禁じ、禁止の動きは全米のキャンパスに広まっています。」「司法試験をやらせても意外と正答が多くて、ミネソタ大ロースクールの試験ではC+でした。大学の授業1回も受けてないAIがC+って、もう頭にろうそく立てて過去の判例記憶するのがバカバカしくなるほどです。不審なところといっても「怪しいぐらいに文法がパーフェクトなことぐらい」（教授）でした。」ギズモードジャパン 記事より 2023年2月2日アクセス [Chat GPT、スタンフォード大期末試験で使われまくる \(msn.com\)](#)

◆ 新たな「何か意味ある行為」としてのAWを（急いで）打ち出せるのか？ 私たちは何と闘っているのか？

◆ 自動翻訳・AIとの闘い なのか？ それとも 自動翻訳・AIを使いながらの 「何か意味ある行為」にできるのか？

◆ 検索サイト・ツールとの闘い なのか？ それともサイト・ツールを使いながらの「何か意味ある行為」にできるのか？

◆ 受験や試験や単位や学位論文（≒道具的動機？）がなければ、AWは 要らない・やりたくないもの なのか？

◆ むしろツールを使いこなしながら、4技能全てを活用し、「論じること」を共有する空間・環境設計をすべき？

◆ アイデア・情報・知見を 日本語教師という職能集団？のメンバーとして 共有できたらうれしいです!!

おもな参考文献

- 井下千以子(2008):『大学における書く力考える力—認知心理学の知見をもとに』東信堂
- 井下千以子(2018)「学生の思考を鍛えるライティング教育の充実に向けて」『大学教育学会誌』41(1) 49-52. 2018
- 井下千以子(2019)「学生の思考を鍛えるライティング教育の充実に向けて」『大学教育学会誌』41(1); 49-52.
- 井下千以子 編著(2022):『思考を鍛えるライティング教育—書く・読む・対話する・探究する力を育む』慶應大学出版会
- 大島弥生(2016)「データ複合型論文における統計資料および事例の解釈部分の構造と表現: 農業経済/漁業経済分野の論文を例に」『専門日本語教育研究』18, 29-36.
- 大島弥生, 佐藤勢紀子, 因京子, 山本富美子, 二通信子(2010)「学術論文の導入部分における展開の型の分野横断的比較研究」『専門日本語教育』12
- 大島弥生(2016)「データ複合型論文における統計資料および事例の解釈部分の構造と表現—農業経済/漁業経済分野の論文を例に—」『専門日本語教育研究』18号, pp.29-36.
- 大島弥生・生天目知美(2018)「資料分析型論文における史料引用による叙述と解釈部分の構造と表現—歴史学/国際政治学/地域研究分野の論文を例に—」『専門日本語教育学会研究討論会誌』20号, pp.30-31.
- 大島弥生・石塚健(2022)「中韓留学生の日本語レポート作成科目におけるオンラインでのピア・レスポンス活動」『立命館アジア・日本研究学術年報』3, 74-93. ★WebにPDFあり
- 大島弥生(2022)講演資料 G-Naviシンポジウム/第41回神戸大学国際教育総合センターコロキウム『留学生に対するアカデミックライティング教育・支援の現状と課題』
- 大島弥生(2021)「理系中国人留学生による学士課程でのライティングを通じた学びのふりかえり」『専門日本語教育研究』23号
- 大島弥生(2022)「初年次必修文章表現科目の成果と課題—授業設計者のための材料として—」井下千以子編著『思考を鍛えるライティング教育—書く・読む・対話する・探究する力を育む』慶應大学出版会, 3-20.
- 大島弥生(2022)「学士課程でのライティングを通じた学びのふりかえりが示唆するもの—インタビューに表れた学習者の語りの分析をもとに—」村岡貴子ほか「学習者と教員の背景要因がアカデミックな日本語教育に及ぼす影響—ヒラリー・学習プロセス・学習環境の観点から狭義の言語能力育成を超えて—」『日本語教育学会2022年度秋季大会予稿集』
- 小森万里・三井久美子(2016)『ここがポイント! レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版
- 佐藤勢紀子・大島弥生・二通信子・山本富美子・因京子・山路奈保子(2013)「学術論文の構造型とその分布: 人文科学・社会科学・工学270論文を対象に」『日本語教育』154号, pp.85-99.
- 佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子(2022)『課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方』ナツメ社
- 成瀬尚志(2016)『学生を思考にいざなうレポート課題』ひつじ書房
- 成瀬尚志(2022)「レポート課題を分析する」『思考を鍛えるライティング教育—書く・読む・対話する・探究する力を育む』慶應義塾大学出版会, pp.155-172
- 二通信子・佐藤不二子(2020)『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- 山本富美子・二通信子(2015)「論文の引用・解釈構造: 人文・社会科学系論文指導のための基礎的研究」『日本語教育』160号, pp.94-109.

ご清聴ありがとうございました。

謝辞・付記・留意点

- 教材をともに作成した方々、作品の提示を許諾してくれた方々に感謝します。
 - 本報告は発表者の経験に基づく見解であり、組織を代表するものではありません。
 - 本報告のうちの一部の研究は、科学研究費補助金基盤研究（B）（「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」）（課題番号19H01269）の助成を受けて行いました。
 - 「改正著作権法第35条は、「学校その他の教育機関」で「教育を担当する者」と「授業を受ける者」に対して、「授業の過程」で著作物を無許諾・無償で複製すること、無許諾・無償又は補償金で公衆送信（「授業目的公衆送信」）すること、無許諾・無償で公に伝達することを認めています。」改正著作権法第35条運用指針 <https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin...>
- *本報告の教材は上記を意識して作成しましたが、35条の対象機関以外での使用に該当するかは不明です。今回の報告は「授業の過程」ではないため、一部をネット配布用の資料から省略します。

質疑応答 1

フロア 1 : (学部 2~3 年生の実践は少ないとの報告に対して) 引用と解釈の連続性・色塗りによる論文構造の理解を 2~3 年生向けの実践にも取り入れられるのか。

大島 : 一概には言えないと思う。学生の学力や動機などによっても取り入れられるかは異なる。大学初年次や高校生の頃にアカデミック・ライティングを学んでいる人もいる。また、アカデミック・ライティングをどこで導入するかは大学のカリキュラムにもよる。多くの大学では 2~3 年生頃からゼミがあるため、そこで取り入れられると思うが、どこで取り入れるべきとは一概には言えない。

フロア 1 : レポートの内容に専門性が付与されていくと、その分野のルールに従う必要があるため、専門性が高まれば、一般的なレポートの書き方に関する教育は困難になる印象がある。

大島 : 私の場合は、学生に対して、「あなたの学問領域についてはあなたが詳しいので、分析して書き方を教えてください」という言い方をして質問者側となっている。また、学生の専門により詳しい先生と共通教育を担当する先生の属性の違いによっては、教え方が違うかもしれない。

講演 2

科学分野を主とする高校から大学院まで一貫した日本語ライティング教育

堀 一成
大阪大学 全学教育推進機構 教授

科学分野を主とする 高校から大学院まで一貫した 日本語ライティング教育



大阪大学 全学教育推進機構
堀 一成



今日の内容

◎大学におけるライティング教育をとりまく状況

- 学部初年次教育
- 高校の新しい教育課程
- 大学院修了者に求められるスキル

◎ライティング教育の取り組みの広がりについて

- 学部初年次生を対象とした取り組み
- 大学院生を対象とした取り組み
- 高校生・高校教員を対象とした取り組み

◎今後の大学でのライティング教育

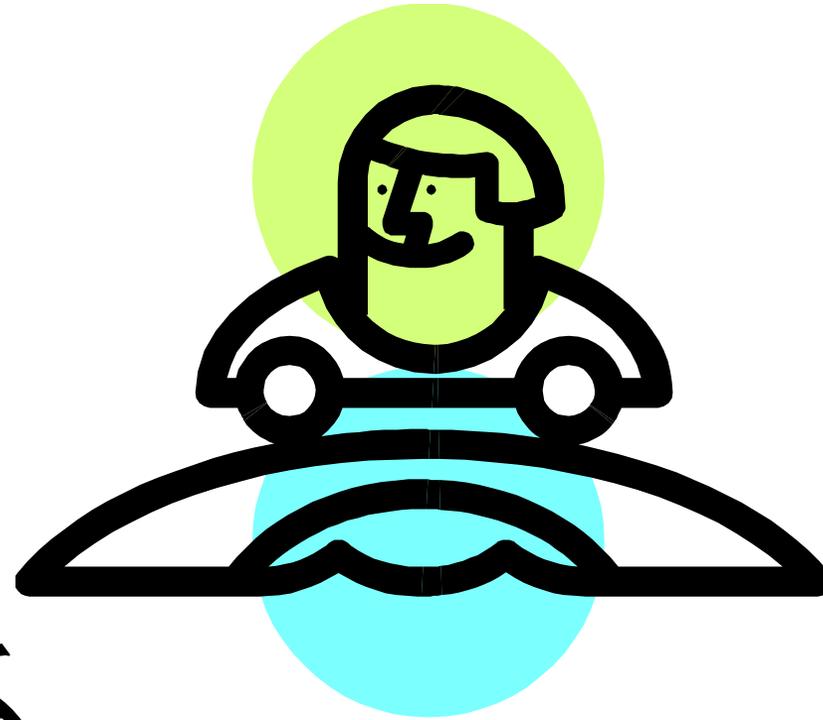
自己紹介

- 1・2年生を対象とする共通教育（教養教育）を
担当する組織の教員
主な研究分野は 自然言語処理・数理工学など
- 情報リテラシー教育や
プログラミング教育を担当
- 大学内情報システムの運営や監査なども担当
- 図書館利用教育・自主学習支援など
学習者中心教育の試みに仕事が生がシフト
(対象が高校生～大学院生・教職員へ拡大)

これまでの主な教育活動

- 大学院生（TA活動）～工業高専教員時期
物理（熱力学、固体物理）、実験指導
- 大阪外大教員時期
情報学基礎、情報リテラシー、プログラミング
- 阪大教員時期
アカデミック・リテラシー、文系実験、物理、
プログラミング、大学院生汎用能力開発
（TA・TF研修、トランスファラブルスキルズ）、
高大接続（SEEDS、高校生ライティング講習）

自分の立ち位置



文系

理系

これまでも、これからも、、、



1. 大学における (日本語)(アカデミック) ライティング教育を 取り巻く状況

2023年2月現在
多くの大学で学部初年次を対象とする
(アカデミック) ライティングを含む
アカデミックスキル教育が行われています

(たとえば)

鹿児島大学 「初年次セミナーⅠ,Ⅱ」

関西大学 「スタディースキルゼミ、プロジェクト学習」

早稲田大学 「学術的文章の作成」

専門課程の大学教員
「卒論・修論書けない卒研究生・院生が
多くて困る！
初年次教育でやっといてよ！」

⇒ 初年次教育で
(必修科目などを開設して)
ライティング教育しましょう！
でも、それだけでOK？

⇒ いやいや、学部初年次の
前にも後にも
ライティング教育は必要ですよ！
みんなでやりましょうよ！



2. 高等学校における ライティング教育の現状

2022年4月から
高校新課程がはじまっています

今回の新課程では国語に大きな科目変更があります。

必修 「現代の国語」 「言語文化」

選択 「論理国語」 「文学国語」

「国語表現」 「古典探究」

各科目で「書くこと」をより重視した
教育内容になっています

必修科目「現代の国語」

- 内容 (2)

話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。
- イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。
- ウ 推論の仕方を理解し使うこと。
- エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。
- オ 引用の仕方や出典の示し方, それらの必要性について理解を深め使うこと。

平成30年告示高等学校指導要領より

選択科目「論理国語」 その1

- 内容 [思考力, 判断力, 表現力等] A書くこと
 - (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について, 書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集, 整理して, 目的や意図に応じた適切な題材を決めること。
 - イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら, 自分の立場や論点を明確にして, 主張を支える適切な根拠をそろえること。
 - ウ 立場の異なる読み手を説得するために, 批判的に読まれることを想定して, 効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。

平成30年告示高等学校指導要領より

選択科目「論理国語」 その2

- エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にすること。
- オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど，文章全体の論理の明晰さを確かめ，自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。
- カ 文章の構成や展開，表現の仕方などについて，自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

平成30年告示高等学校指導要領より

2022年4月から
高校新課程がはじまっています

今回の新課程では「探究」が付く科目が多く新設されます

「古典探究」「地理探究」「日本史探究」

「世界史探究」「理数探究基礎」

「理数探究」「総合的な探究の時間」

「総合的な探究の時間」は
2019年4月から始まっています。

「理数探究基礎」

- 数学・理科の考え方を組み合わせ、課題を解決する基本的な資質・能力を育成する。
- 内容 イ（ウ）探究した結果をまとめ、適切に表現する力
- 内容の扱い（2）実施に当たっては、探究した結果について、
報告書などを作成させるものとする。

平成30年告示高等学校指導要領より

「理数探究」

- 数学・理科の考え方を組み合わせ、課題を解決する資質・能力を育成する。
- 内容 イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ウ) 探究の過程を整理し、成果などを適切に表現する力

- 内容の扱い (5) 実施に当たっては、探究の成果などについて、報告書を作成させるものとする。

平成30年告示高等学校指導要領より

探究科目以外でもライティング要素が

[数学]

目標（２） 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

[理科]

物理基礎 3. 内容の扱い イ
情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈, 法則性の導出などの探究の方法を習得させるようにするとともに, 報告書などを作成させたり, 発表を行う機会を設けたりすること。

平成30年告示高等学校指導要領より

高校生は、ちゃんと
ライティングスキルを
習得できるか？

高校の先生は自信をもって
指導できるか？

⇒ 大学教員が貢献できること
もあるのでは？

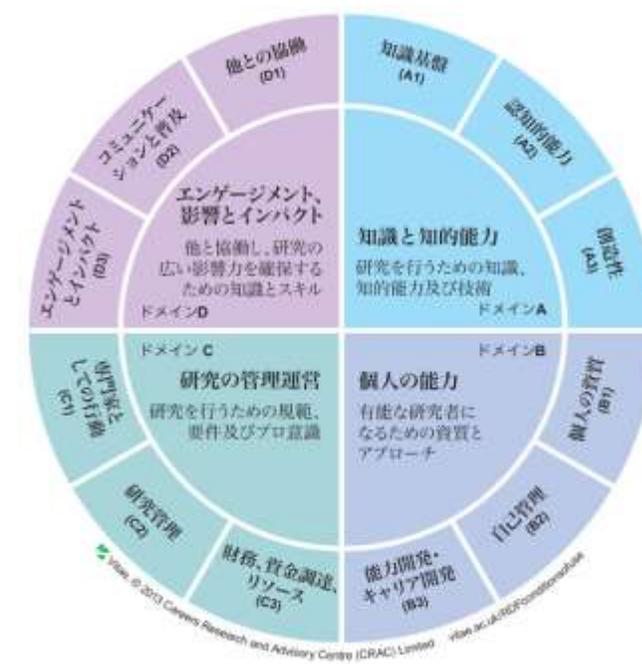


3. 大学院修了者に 求められる汎用力

大学院修了者には
専門分野の能力だけでなく
汎用的能力が求められています

汎用的能力 ⇒ (いかなる職業でも) 転換可能な能力
⇒ トランスファラブル・スキルズとも言う

- ◎ 非専門家とのコミュニケーション力
 - ◎ プロジェクトマネジメント能力
 - ◎ 資金獲得・管理能力
 - ◎ 他者に何かを教え、協力する能力 など
- 詳しいことは、科学技術振興機構が提供する
Vitae RDF を参照



<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekVitaeInformation>

専門内容の習得・研究に
忙しい大学院生は、
ちゃんと

トランスファラブル・スキルズを
獲得できるか？

⇒ ライティング教育科目を
その獲得の場にできるのでは？

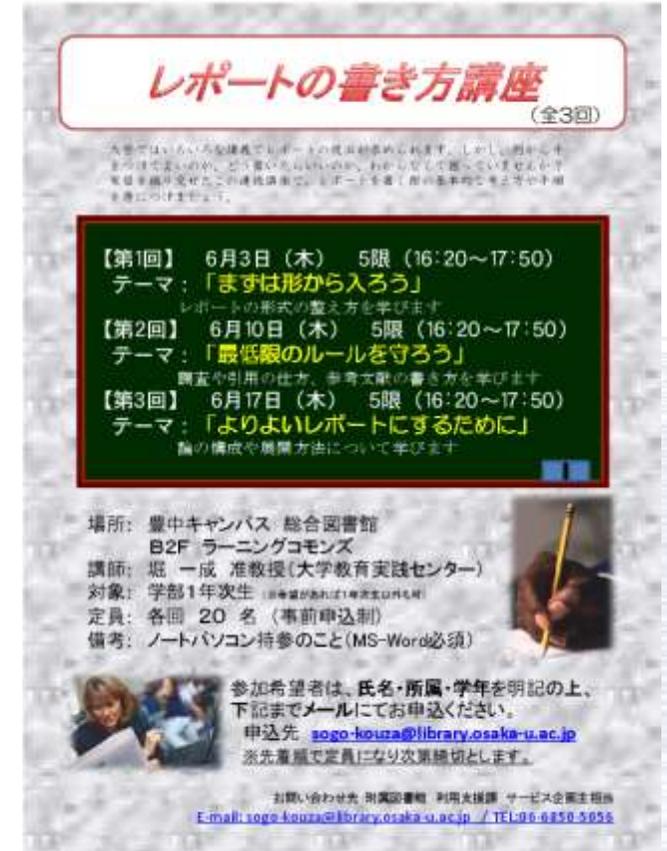


4. ライティング教育の 取り組みの広がりについて

学部初年次生を対象とした ライティング指導 (2010年～)

学部学生対象ライティング教育の 始まりは附属図書館での 「レポートの書き方講座」(2010年～)

- 2010年に新設された附属図書館の
ラーニング・コモンズを会場に、
アカデミック・ライティングの基本を
紹介する気軽なセミナー
(参加任意・毎回数人)
- 2023年現在、附属図書館
ラーニング・サポーターの
計画・担当する
各種アカデミックスキル講座に移行



レポートの書き方講座
(全3回)

本学では、いろいろな講義でレポートの提出が求められます。しかし、何から手
を付けようか、どう書いたらいいのかわからず悩んでいませんか？
実は、レポートの書き方講座が、レポートを書く際の基本的な書き方や手順
を身につけてください。

【第1回】 6月3日(木) 5限(16:20~17:50)
テーマ: 「まずは形から入ろう」
レポートの形式の整え方を学びます

【第2回】 6月10日(木) 5限(16:20~17:50)
テーマ: 「最低限のルールを守ろう」
調査や引用の仕方、参考文献の書き方を学びます

【第3回】 6月17日(木) 5限(16:20~17:50)
テーマ: 「よりよいレポートにするために」
論の構成や展開方法について学びます

場所: 豊中キャンパス 総合図書館
B2F ラーニングコモンズ
講師: 堀 一成 准教授(大学教育実践センター)
対象: 学部1年次生(※希望者は1年次生以外も可)
定員: 各回 20名(事前申込制)
備考: ノートパソコン持参のこと(MS-Word必須)

参加希望者は、氏名・所属・学年を明記の上、
下記までメールにてお申込ください。
申込先: sogo-kouza@library.osaka-u.ac.jp
※先着順で定員になり次第締切とします。

お問い合わせ先 附属図書館 利用支援課 サービス企画主催
E-mail: sogo-kouza@library.osaka-u.ac.jp / TEL: 06-6850-3055

Osaka University Library Current News No.81 May 2010

- **アドヴァンスト・セミナー「学術的文章の作法」**
アカデミック・ライティングの基本を
15回のアクティブラーニング授業で習得
受講者約20名
- **教養科目「試して学ぶ物理学入門」**
実験ノートの取り方、レポートの書き方も指導 受講者約20名
- **「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」配布**
大学リポジトリから自由にダウンロードできる
<http://hdl.handle.net/11094/71454>
- **阪大ウェルカムチャンネル (YouTube) で**
アカデミック・ライティング説明動画を配信
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/support/study-skills/>

大学教員を対象とした研修などの取り組み

- 大阪大学高大連携物理教育セミナー
- ライティングFDプログラム
「科目の中でのアカデミック・ライティング指導法」
- ライティング指導教員マニュアルの公開
- 「あらためて、ライティングの高大接続」
ひつじ書房 の発刊

大学院生も ライティングスキル不足の 事例がある

⇒ 大学院生も対象にしよう！
でも大学院生ならではの
科目内容は？
(2014年～)

大学院生対象ライティング教育

○大学院科目「学術的文章の作法とその指導」

アカデミック・ライティングの基本とその指導法を
15回のアクティブラーニング授業で習得。
ルーブリックを利用した多数回相互評価を導入。

受講者約20名（理系院生・留学生多数）

○附属図書館ラーニング・サポーター研修

附属図書館で学習支援にあたる大学院生（ラーニング・サポーター）の活動を有効にするための研修。

数学・物理など理系内容の支援方法を集めて研修
アカデミック・ライティング指導法を含む。年2回

大学入学前に
ライティングスキルを
ある程度獲得してもらいたい
⇒ 高校任せにしないで
自分も何か活動しよう！
(2016年～)

○大阪大学SEEDSプログラム

高校生が大阪大学で**科学の研究を体験する**

約150名、夏休みにアカデミック・ライティング講習（1回）

○京都府立鳥羽高校 「イノベーション探究II」

2年生 80名 文理合同 1年間4回（夏休みは半日集中）
研究法・ライティング・ポスター発表

○大阪府立大手前高校 2年生 30～40名 文系コース中心
1年間6回 総説・リーディング・ライティング

○大阪教育大学 附属高校池田校舎

1年生120名、2年生120名
1年生は総説・リーディング（2回）、2年生はライティング（3回）

高校教員を対象とした研修の取り組み

- 京都府教育委員会主催
京都府立高校教員対象研修
- 大阪教育大学 附属高等学校池田校舎の教員研修

探求科目で生徒が提出したレポートを
高校教員がルーブリック評価し、
教員間で評価情報を共有することで、
指導内容・方法のイメージを把握してもらおう。



5. 今後の大学での ライティング教育は どうなっていくのでしょうか？

ChatGPTの出現と 今後のライティング教育

2022年後半くらいから、絵や文章を生成する人工知能システムが高性能化

- OpenAI社のChatGPT

<https://openai.com/blog/chatgpt/>

(レポート課題でありがちな) 記述式課題に対し、かなり自然な日本語文章を生成する。

学生が本当に書いたか？ ChatGPTに書いてもらったか？

簡単に見分けがつかなくなる。

- 2023年2月現在、特に専門的な内容については、間違った情報を返すこともある (が、時間の問題?)
- GoogleもBardという対抗システムを公開予定。

どうしよう？



- ◎最終成果物の提出だけを求めるのではなく、ライティングプロセスを細かく評価する必要があるのでは？
- ◎AIにライティング成果を評価してもらおう
利用法もあるのでは？

学部専門課程での 今後のライティング教育

学部専門課程でのライティング教育を進めないと 中抜けになってしまう！

- ◎ ライティング教育できる者と
専門課程を教育できる者が協働する
(例：東京海洋大学)
- ◎ なるべく自習が容易になるよう
専門に特化したライティング教材を提供する
(書籍・Eラーニング・動画など)

専門課程に特化したライティング教材例 (生物)

堀一成、北沢美帆、山下英里華 著

「ダメ例から学ぶ
実験レポートをうまくはやく
書けるガイドブック」

羊土社

ISBN 978-4-7581-0853-9

1,980円税込み



専門課程に特化したライティング教材例

(看護)

因京子 著 「看護現場で役立つ 文章の書き方・磨き方」

日本看護協会出版会 ISBN 978-4-8180-2362-8

(法学)

井田良、佐渡島紗織、山野目章夫 著

「法を学ぶ人のための文章作法」

有斐閣 ISBN 978-4-641-12589-6

(化学)

今田泰嗣、大嶋孝志、廣瀬敬治 著

「化学を学ぶ人の レポート・論文・発表マスターガイド」

化学同人 ISBN 978-4-7598-1290-9

専門課程に特化したライティング教材例 (英語のPDF教材)

Harvard Writing Project “Disciplinary Writing Guides”

<https://writingproject.fas.harvard.edu/pages/disciplinary-writing-guides>

- 学部上級から大学院生くらいを対象にした
専門分野に特化したライティング教材
- 2023年2月現在、15分野で提供
- 各学問分野の他と異なる文化を紹介
(対象情報の扱い方、引用法、参考文献の書き方など)

まとめ？

- ◎ 目の前の教育対象だけでなく、
広く見渡しましょう。
なるべく多くの人と
関わり合いになりましょう。
⇒ その方が事態が好転するようです



勇気を出して、なにか始めてみましょう！

全体討論

全体討論

司会：本日のお二人の先生の発表は、まず Chat GPT について、という面で共通点があった。また、ピア活動、分野の違いを超えたライティング教育の在り方、学部で考えた時、2～3年生という中間段階での指導についても話があった。まず大島先生にお聞きしたいが、AIの使用による大学での論理的な文章の作成は可能かどうかについて教えてほしい。

大島：私はピア活動でのマップの作成は手書きでさせているが、論理展開は学生に喋らせているので、AIを使ったとしても喋ることで一旦自分の体を通すという意義が生まれると思う。ただし、話せていても清書させるとコピペになったりする。話せることと800字以上の文を正しく作成することは違う。

司会：ピア活動と最終生成物にはギャップがあるということか。それから、色塗り活動は分かりやすくていいと思うが、これは複数の分野の学生がやっていたのか。また、いろいろなジャンルの論文を読ませていたのか。

大島：(事例1での論文読解練習の場合は)私は経営学(実践時の学生の所属学部の専門)の分野から論文を選んでいて。授業に参加しているのが1つの学部の学生のみであれば、その分野に絞ってやるといいと思う。日本語クラスにはいろいろな分野の人がいる可能性が高いが、例えば介護についての文章はどんな分野の人も興味関心が高い。(事例3の論文読解練習で使わせていただいた)介護に関する文章は理系寄りでも文系寄りでもなく、難しすぎない文章になっている。多くの学生が関心を持ちやすい中間的なジャンルがいいと思う。そのため、ジャンルの見極め力が支援者には必要とされる。授業が15週あるなら、後半は学生に自分の修論に関する分野の論文について色塗りさせて発表させるといいと思う。

司会：堀先生にも同様の点についてお聞きしたいが、大学院向けの授業では文系・理系の人が共に参加するのが一般的であるため、そこにギャップがあると思う。そのギャップについては、どう思うか。

堀：トランスフェラブル・スキルズの観点からそこを意識した方がいいと思う。大学院生の方は自分の分野の予稿集などは書けるが、それを異分野の人に分かりやすく紹介するという練習はしていないので、その練習を意識するといいと思う。

司会：ギャップがあっているのか。

堀：ギャップがある前提で進めている。ギャップがある人にもわかってもらえるものを書きましよう、と説明している。

司会：高校での指導ではプロセスを見るということもおっしゃっていたが、ピア活動についても高校の先生方に伝えていたのか。

堀：伝えていた。私は京都府立鳥羽高校で探究学習授業の支援の実践を長年行って、最初はなかなか高校生を対象として適切な指導方法が見つからなかった。高校の先生ともよく相談し、高校生のためになることは何かという視点で指導法を検討したところ、探究のプロセスを重視する授業になった。大学生と同じような内容ではできないので、高校の先生の意見を重視し記録・評価するプロセスの項目を絞った。鳥羽高校の探究学習科目は、「イノベーション探究」という科目群である。1年生の頃から実施していて、調べたことをポスターにしたり発表してもらったりする。そして、2年生の終わりにはミニレポートを作成できるように段階を踏む形で指導していく。大阪大学の教員が大学でのやり方に関する知見を提供して、それを高校の形にフィットさせてもらった実践方法になっている。

司会：村岡先生からもコメントをお願いしたい。

村岡：両者に共通することの背景として考えられるのは、ライティング活動が高校・大学においても、社会人になってからも重要であるということである。学生も、社会人も、評価というものは、報告やプレゼンを通じて、基本的にライティングによる成果物でなされる。また、プロセス重視ということに関しては、大学教育においては「深い思考」を促す必要がある。その深い思考において、他者との協働も入れた時間のかかるプロセスが、アカデミックかつダイナミックな書記コミュニケーションそのものであると思った。

司会：フロアからも質問があるか。

フロア1：(発表者の先生方は) 提言なさった学年・分野横断的なアカデミックスキルの教育を学内のFDでしていたと思うが、その時の他の先生方の反応はどうだったか。最近実務家の人もアカデミックスキルの授業を担当するようになってきているため、分野横断で繋いでいく工夫としてどのようなことができるのか聞きたい。また、Chat GPTはテクノロジーとしては重要だと思うが、伝える技術として、Twitterで短い文章の中に情報を詰め込むという作業を若者は日常的に行っている。Instagramで写真と共に表現するというのもしている。そのため、ライティングスキルが大事だということのをどのように説得力を持って伝えればよいのか。

大島：前任校の話になるが、理科系の先生方は書くことの指導への動機づけが高い。それは、論文を書く頻度が高い、マスターに行く人が多いと言った背景からだろう。私は、一緒に初年次ライティングを担当してくれた理系の先生に「書くことを動機づけてください」ということをお願いして、最後にその先生の論文を配ってもらった。動機づけのために「分野が異なる相手にも伝わる文章が書けなければ、研究のためのお金が手に入らないから、たとえいい研究でもでき

ないのだ」と強く主張してくれたした先生もいらした。

研究職だけでなく、看護・介護・保育・公務員などの多くの職業で、報告書等、書かないといけないものがあり、書くことで私達の仕事が遂行されている部分がある。書いたものを評価されることで大人の仕事が成り立っている。芸術系大学でも作品がいいというだけではなく、作品を応募する際には趣意書が重要だそうだ。IT の人も仕様書の作成が必要である。そのため、書くことが死活的な問題だということはどこかで学生に気づかせるべきだと思う。

堀：ライティング教育が必要ということについては、FD などに参加した他の先生方にも賛成してもらえた。他の先生方も自分の指導下の学生が論文を書けないことを問題視している。卒論も、プロセスを踏んでどういう卒論になるかを考えてもらうことで、そこそこ書けるようになった学生もいた。ただし、先生方が教育に熱心かと言うとご自身の研究で忙しそうで、ライティングを熱心に教えられる感じではなかった。忙しい専門科目の中に、どのようにイージーにライティング科目っぽい内容を組み込めるかが、今後は大事だと思う。専門科目のレポートを書く際にもプロセスを重視しながら行い、スモールステップで練習させていくといいと思う。例えば、ある課題では参考文献の書き方を特に重視して練習する、別の課題では妥当な論証法を特に重視して練習する、など。

インスタ世代との関わり方については、私自身は、文章を書くスキルだけが重要ではなく、広い意味でのアカデミックなアウトプットスキルが向上すればいいと思っている。研究の成果を動画で分かりやすく発信するなど、今後は文章の作成力だけがアカデミックなアウトプット力ではなくなってくるかもしれない。しかしながら、自然言語による記述は抽象的になりがちな学術的な内容を表現するには有利だと思う。それは、具体的個別的な情報提供内容になりがちな動画情報と異なり、抽象的な言語記述情報は、少ない情報量で幅広い内容を一気に表現することができるためである。

フロア 2：初年次教育では論証型レポートを 15 回にわたって指導するが、2～3 年次は特に指導が無く、4 年生になって卒論を書くという話が講演の中であった。私はライティング相談室の教員だが、1 年生はこれからレポートを書くので意識が高く、4 年生も先生から言われてライティング相談室に来る。しかし、2～3 年次のサポートが無いため、4 年生になってはじめて困っている人が多い印象である。相談員として何が出来るか。

大島：2～3 年次の科目を持っている先生にライティングの課題を入れてもらい、相談室に行くといいと学生に助言してもらおうことができると思う。

堀：大島先生と同じく先生にアピールしてもらって、相談室の存在も知ってもらおうのがよいと思う。

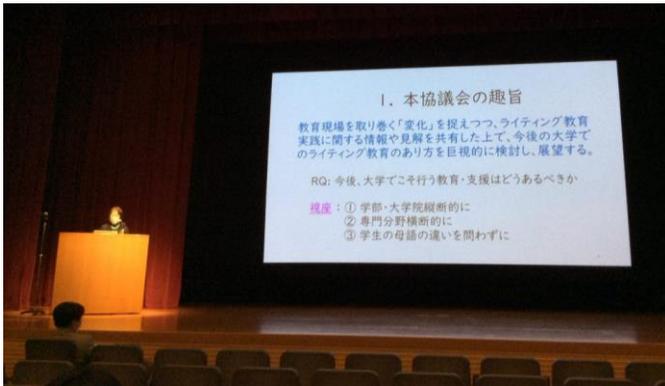
協議会の様子



講演 1



講演 2



報告



全体討論

付録：過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況

1. 第1回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」
日時：2007年3月13日（火）13：00～17：50
場所：吹田キャンパスICホールRoom 5 & 6

2. 第2回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「大阪大学における専門日本語教育のさらなる定着に向けて
—留学生・指導教員とのディスカッションを通して—」
日時：2009年3月10日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス ICホールRoom 5 & 6

3. 第3回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育におけるライティング能力の養成
—留学生と日本人学生の双方に対する教育の共通課題—」
日時：2010年3月9日（火）13：00～17：30
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

4. 第4回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「キャリア形成につながる専門日本語教育を考える」
日時：2011年3月8日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

5. 第5回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「日本語教育のスタンダードの課題と展望」
日時：2012年2月15日（水）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

6. 第6回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「研究留学生のための専門日本語教育を考える」
日時：2013年2月19日（火）13：00～17：00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

7. 第7回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「上級レベルの専門日本語教育 -理論と実践-」
日時：2014年2月17日（月）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス IC ホールRoom 5 & 6

8. 第8回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える
-大学から社会への橋渡しを視野に-」
日時：2015年2月17日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室2

9. 第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「専門日本語教育におけるIT活用の可能性」
日時：2016年2月16日（火）13:00～16:55
場所：吹田キャンパス IC ホールRoom 5 & 6

10. 第10回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」
日時：2017年2月21日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス IC ホールRoom 5 & 6

11. 第11回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「学習者オートノミーを育む言語学習とその支援」
日時：2018年2月16日（金）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス IC ホールRoom 5 & 6

12. 第12回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「市民性教育と日本語教育」
日時：2019年2月19日（火）13:00～17:00
場所：吹田キャンパス コンベンションセンター1階 研修室

13. 第13回大阪大学専門日本語教育研究協議会：
「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」

日時：2020年2月18日（火）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター2階 会議室2

14. 第14回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「日本語の上達を支援する教育実践の創造

－ITを有効に活用したチームでの教育実践の可能性－

日時：2022年2月15日（火）13:30～17:00

場所：オンラインで開催